

多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム 2020 年度・2021 年度実施報告書

タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール
インドネシア大学スプリングスクール

アジア研究教育ユニット (KUASU)
国際高等教育院 (ILAS)

目次

はじめに.....	iii
1 多文化共学短期留学プログラム.....	1
1.1 概要.....	1
1.2 多文化共学短期留学プログラム準備.....	2
1.2.1 全学共通科目「日本語・日本文化演習」の開講.....	2
1.2.2 情報共有.....	5
2 実施状況.....	5
2020 年度.....	8
3. チュラーロンコーン大学学生交流セミナー.....	9
4. チュラーロンコーン大学スプリングスクール.....	10
4.1 実施体制.....	10
4.2 募集要項とポスター.....	11
4.3 研修日程.....	15
4.4 参加学生一覧.....	15
4.5 発表とディスカッション.....	16
4.6 参加学生報告.....	17
5 インドネシア大学スプリングスクール.....	23
5.1 実施体制.....	23
5.2 募集要項とポスター.....	24
5.3 研修日程.....	28
5.4 参加学生一覧.....	28
5.5 共同発表.....	29
5.6 参加学生報告.....	30
2021 年度.....	34
6. ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー.....	35
7. チュラーロンコーン大学スプリングスクール.....	36
7.1 実施体制.....	36

7.2	募集要項とポスター	37
7.3	研修日程	41
7.4	参加学生一覧	41
7.5	事前語学学習レポート	42
7.6	共同発表	43
7.7	担当教員所感	43
7.8	参加学生報告	43
8.	インドネシア大学スプリングスクール	46
8.1	実施体制	46
8.2	募集要項とポスター	47
8.3	研修日程	51
8.4	参加学生一覧	52
8.5	事前語学学習レポート	52
8.6	共同発表	54
8.7	担当教員所感	55
8.8	参加学生報告	56

はじめに

今日、大学における研究・教育はますます国際化が進んでいます。京都大学でも、「京都大学ジャパングートウェイ構想」に基づいて世界トップレベルの大学との留学生交流が展開されております。京都大学アジア研究教育ユニットも、その一端を担うプログラムの提供・実施をおこなっており、東南アジア諸国への学生派遣を進めてきました。



2020年度および2021年度は、新型コロナウイルス拡大の影響により、実施体制を対面からオンラインに変更しました。2020年度は計8名、2021年度は4名の京都大学学部生・大学院生オンラインの短期派遣に参加しました。2013年度から2021年度までの派遣学生数の合計は170名に至りました。本報告書は上記プログラムの今年度の実施体制・内容、プログラム担当教員の所感、学生の報告書などを掲載しています。

本派遣プログラムでは、京都大学で全学的に参加者を募集しており、さまざまな学部・研究科から多様な興味・関心を持つ学生が参加しています。これらの派遣プログラムの目的は、派遣先大学での交流や文化体験を通して、日本/東南アジアを新しい視点から見つめなおし、日本/東南アジアの社会・文化の理解を深めることです。派遣先大学では、語学力・コミュニケーション能力を伸ばしつつ、派遣先大学の大学生たちとの交流を通じて、異なる文化・社会での生活を体験するとともに、日本/東南アジアに関する国際的な見方を身につけるための様々な機会が提供されます。

2020年度と2021年度は、オンラインでの実施となりましたが、結果的には大きな問題を抱えることなくプログラムを終了することができました。実施体制の大幅な変更にも関わらず、これら派遣プログラムを無事に実施できたのは、派遣先大学のプログラム担当教職員との連携体制や、様々な危機管理体制を整備してきたからこそでしょう。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター（旧国際交流センター）と京都大学アジア研究教育ユニットが連携大学と共に積み重ねてきた数多くの学生派遣の実績が安定した交流の確かな基盤を作り上げてきたことを嬉しく思います。

プログラムの実施にあたっては今年も多くの方々にご尽力いただきました。国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センターの諸先生方、アジア研究教育ユニットの先生方、教育推進・学生支援部国際教育交流課交流支援掛の事務の担当者、アジア研究教育ユニットの事務の担当者、派遣先大学における教職員の方々、およびサポート役を務めてくれた派遣先大学の学生たち。令和2年度と令和3年度のオンライン派遣プログラムは、こうした皆様のご支援とご協力なしに成り立ちませんでした。この場を借りて心より感謝申し上げます。

2022（令和4）年3月
京都大学アジア研究教育ユニット
ユニット長 落合恵美子

1 多文化共学短期留学プログラム

1.1 概要

多文化共学短期留学プログラムは、京都大学アジア研究教育ユニット（以下、KUASU）と国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター（以下、日・日センター）が主体となって展開しているプログラムである。東アジアおよび東南アジア諸国連合におけるトップクラスの諸大学と京都大学との間で短期学生派遣／受入をおこなっている。本報告書は、そのうちの東南アジアへの派遣プログラムについて報告するものである。

2017 年度より、東南アジアへの派遣プログラムは、京都大学が全学として実施する事業（以下、全学事業）の一つと見なされることになった。実施主体は、上記の KUASU と日・日センターであることに変化はないものの、京都大学重点アクションプランによる費用補助、全学的広報促進等、全学事業としての支援を得られることとなった。

実施主体の一つである KUASU は、平成 24 年度から開始された文部科学省による大学の世界展開力強化事業のプロジェクト（『開かれた ASEAN+6』による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成）を推進する母体となってきた。KUASU を構成するのは、文学、経済学、農学、教育学、アジア・アフリカ地域研究の各研究科と、国際高等教育院、東南アジア地域研究研究所、人文科学研究所、経営管理研究部である。

これまで本プログラムは SEND プログラム（*Student Exchange - Nippon Discovery Program*）と呼ばれてきた。多文化共学短期留学プログラムは、SEND プログラムと同様、日本文化、日本社会を「外」の視点から捉えなおすことによって、アジア（および世界各国）と日本とのあいだの相互理解の促進と、互いに共通する課題の発見・解決を目指すことを主眼としている。

本報告書では、KUASU と日・日センターを主体としておこなった、令和 2 年度および令和 3 年度の派遣業について報告する。令和 2 年度と令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにて短期派遣プログラムを実施した。また、対面からオンラインへの実施形態の変更により、短期派遣プログラムの実施件数を従来の年 3 回から年 2 回に変更した。まず、令和 2 年 10 月 22 日にチュラーロンコーン大学との 1 日のみの学生交流セミナー（タイ・チュラーロンコーン大学との学生交流セミナー：それぞれの「今」から見たタイ・日本文化比較）を実施して、オンライン開催の可能性を探った。学生交流セミナーにて、オンラインでの実施が可能であることを確認した後、春にタイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクールを通常と同じ 2 週間の期間で実施した。またインドネシア大学スプリングスクールは、後期集中科目としては不開講としつつも、期間を短縮し試験的に実施した。令和 3 年度は、令和 2 年度に開催を見送ったベトナム国家大学との交流を再開するために、1 日のオンライン学生交流セミナー（ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー：ベトナムと日本の「今」と「これから」）を実施した。春にはタイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクールとインドネシア大学スプリングスクールを通常通りの期間でオンラインにて実施した。令和 2 年度と令和 3 年度には、表 1 の通り 4 件の短期派遣プログラムを実施した。

表 1.1 単発の学生交流セミナー

形態	プログラム名称 (実施期間)	対象国
オンライン	「タイ・チュラーロンコーン大学との学生交流セミナー：それぞれの「今」から見たタイ・日本文化比較」(令和2年10月22日)	タイ
オンライン	「ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー：ベトナムと日本の「今」と「これから」」(令和4年1月6日)	ベトナム

表 1.2 短期派遣プログラム一覧

形態	プログラム名称 (実施期間)	対象国
オンライン	「タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール」(令和3年3月11日～3月24日)	タイ
オンライン	「インドネシア大学スプリングスクール」(令和3年3月1日～3月12日)	インドネシア
オンライン	「タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール」(令和4年2月14日～2月25日)	タイ
オンライン	「インドネシア大学スプリングスクール」(令和4年2月21日～3月4日)	インドネシア

1.2 多文化共学短期留学プログラム準備

1.2.1 全学共通科目「日本語・日本文化演習」の開講

本プログラムに参加する京都大学の学生は、プログラム内で日本語・日本文化についての解説や考察をおこなう。派遣プログラムでは、京都大学学生が主体となって派遣先大学でそれを実践する。一方、受入プログラムでは、短期交流学生(=受入留学生)が主体となって京都大学で解説・考察をおこなう。派遣/受入のどちらにおいても、日本人学生と外国人学生との共学が基盤となる。その実践に必要となる京都大学学生の能力を養成するため、平成25年度から日・日センターの教員が中心となってリレー式に担当する「日本語・日本文化演習」(全学共通科目：キャリア群)が毎年度開講されている。その概要は、次ページの表2にしめすシラバスの通りである。

表 2.1 令和2年度「日本語・日本文化演習」シラバス

授業科目名、英訳	日本語・日本文化演習 Japanese Language & Culture		担当者 所属 職名・氏名	前期： 国際高等教育院 教授 河合 淳子 准教授 湯川志貴子 准教授 家本太郎	後期： 国際高等教育院 教授 河合 淳子 特定准教授 佐々木幸喜 学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島薫
群	キャリア群	分野（分類）	その他キャリア形成	使用言語	日本語／英語
単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習
開講年度	2020 前期／後期	配当学年	全回生	対象学生	全学向
曜日時限	月2／金3	教室	吉田国際交流会館		
授業の概要・目的					
<p>本授業では、まず講義で日本語や日本文化の特徴、およびその様々な検討方法を学ぶ。その際、日本文化を広義に定義し、その範囲に日本社会の状況、社会問題をも含んで講義を進めていく。そして、日本語、日本文化、日本の社会状況を紹介する経験とその準備を通して、日本人学生と留学生が共に、日本語、日本文化、社会状況ならびに自分自身が身につけてきた言語や文化、そして自分自身が育ってきた社会の特徴を再発見することを目指す。そして、その過程を通じて、グローバルな視野に立った物の見方・考え方を養うことを目的とする。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語、日本文化、日本の社会状況ならびに自分自身が身につけてきた言語、文化を捉える多様な視点を学ぶこと。 ・日本語、日本文化、日本の社会状況を紹介し、異なる文化的背景を持つ学生間で議論を行うことによってグローバルな視野に立った物の見方・考え方を身につけること。 ・母語とは異なる言語による、より効果的なプレゼンテーション及びディスカッションの技法を習得すること。 					
授業計画と内容					
<p>多様な文化を有する人たちとの交流の中で、自国文化や社会的状況を多面的に理解し紹介できることが要請される場面は多い。日本人であっても日本語や日本文化について深い理解をもって解説するためには、言語・文化に意識的に向き合わなければならない。本授業は、日本語や日本文化を意識的に捉え、深い理解に立って他者と見方や考え方を共有できるようなることを目的に、講義を中心としながら、演習・討議を交えて進めていく。</p> <p>講義担当（予定）</p> <p>1回目 オリエンテーション <講義担当：河合、湯川（前期）、西島（後期）></p> <p>2回目～7回目<講義担当：河合、佐々木></p> <p>日本語の特徴－（講義）</p> <p>言語の機能と文化－（講義）</p> <p>日本語、日本文化、日本社会に関するプレゼンテーション準備及び討議（実習）</p> <p>8回目～13回目 <講義担当：河合、西島（後期）、家本（前期）></p> <p>世界の中の日本文化、日本社会の特徴－何をどう伝えるか－（講義）</p> <p>日本文化、日本社会に関するプレゼンテーション準備及び討議（実習）</p> <p>14回目 <講義担当：河合、佐々木、西島（後期）、湯川、家本（前期）></p> <p>プレゼンテーション</p>					
教科書／参考書等					
プリントを配布する／授業中に紹介する					
授業外学習（予習・復習）等					
実習、プレゼンテーションの準備として段階を追って随時課題が出される。各自、積極的に準備を行うことが求められる。					
その他（オフィスアワー等）					
<p>海外留学を考える学生を優先するが、これまでとは異なる新しい視点で日本語・日本文化を考えてみようとする学生や留学生の受講も歓迎する。</p> <p>大学間交流協定による短期留学プログラム（東アジア）、ASEAN 短期留学プログラム参加のための推奨科目となっている。</p>					

表 2.2 令和3年度「日本語・日本文化演習」シラバス

授業科目名、英訳	日本語・日本文化演習 Japanese Language & Culture	担当者所属 職名・氏名	前期： 国際高等教育院 教授 河合 淳子 准教授 家本太郎 特定准教授 佐々木幸喜	後期： 国際高等教育院 教授 河合 淳子 特定准教授 阿久澤弘陽 学際融合教育研究推進センター 特定助教 西島薫
群	キャリア群	分野（分類）	その他キャリア形成	使用言語
単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態
開講年度	2021 前期／後期	配当学年	全回生	対象学生
曜日時限	月2／火2	教室	吉田国際交流会館	
授業の概要・目的				
<p>本授業では、まず講義で日本語や日本文化の特徴、およびその様々な検討方法を学ぶ。その際、日本文化を広義に定義し、その範囲に日本社会の状況、社会問題をも含んで講義を進めていく。そして、日本語、日本文化、日本の社会状況を紹介する経験とその準備を通して、日本人学生と留学生が共に、日本語、日本文化、社会状況ならびに自分自身が身につけてきた言語や文化、そして自分自身が育ってきた社会の特徴を再発見することを目指す。そして、その過程を通じて、グローバルな視野に立った物の見方・考え方を養うことを目的とする。</p>				
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 日本語、日本文化、日本の社会状況ならびに自分自身が身につけてきた言語、文化を捉える多様な視点を学ぶこと。 日本語、日本文化、日本の社会状況を紹介し、異なる文化的背景を持つ学生間で議論を行うことによってグローバルな視野に立った物の見方・考え方を身につけること。 母語とは異なる言語による、より効果的なプレゼンテーション及びディスカッションの技法を習得すること。 				
授業計画と内容				
<p>多様な文化を有する人たちとの交流の中で、自国文化や社会的状況を多面的に理解し紹介できることが要請される場面は多い。日本人であっても日本語や日本文化について深い理解をもって解説するためには、言語・文化に意識的に向き合わなければならない。本授業は、日本語や日本文化を意識的に捉え、深い理解に立って他者と見方や考え方を共有できるようなることを目的に、講義を中心としながら、演習・討議を交えて進めていく。</p> <p>講義担当（予定）</p> <p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目～7回目 <講義担当：河合、家本（前期）、西島（後期）></p> <p>日本語の特徴－（講義）</p> <p>言語の機能と文化－（講義）</p> <p>日本語、日本文化、日本社会に関するプレゼンテーション準備及び討議（実習）</p> <p>8回目～13回目 <講義担当：河合、佐々木（後期）、阿久澤（前期）></p> <p>世界の中の日本文化、日本社会の特徴－何をどう伝えるか－（講義）</p> <p>日本文化、日本社会に関するプレゼンテーション準備及び討議（実習）</p> <p>14回目 <講義担当：河合、阿久澤、西島（後期）、湯川、家本（前期）></p> <p>プレゼンテーション</p>				
教科書／参考書等				
プリントを配布する／授業中に紹介する				
授業外学習（予習・復習）等				
実習、プレゼンテーションの準備として段階を追って随時課題が出される。各自、積極的に準備を行うことが求められる。				
その他（オフィスアワー等）				
<p>海外留学を考える学生を優先するが、これまでとは異なる新しい視点で日本語・日本文化を考えてみようとする学生や留学生の受講も歓迎する。</p> <p>大学間交流協定による短期留学プログラム（東アジア）、ASEAN 短期留学プログラム参加のための推奨科目となっている。</p>				

1.2.2 情報共有

各プログラムの実施前および実施中、以下の図1に示すような連絡体制をとった（図中の矢印は情報の行き来をあらわしており、太線はプログラム担当者が関わる連絡、細線は学生どうし、あるいは学生からの連絡をあらわす）。

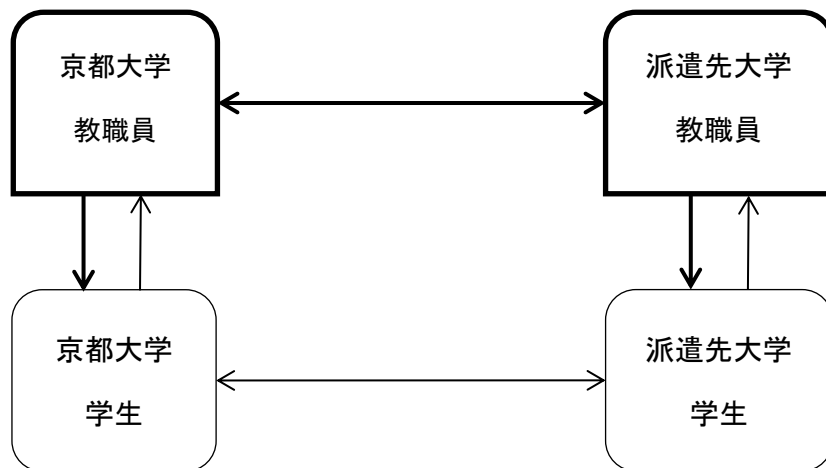


図1 情報共有体制の概要

共有した情報の内容としては、以下のものがあげられる。

- 教職員－教職員間： プログラムの運営に関する教務的情報と一部の事務的な情報
- 教職員－学生間： プログラム内容に関する教務的な情報
- 学生－学生間： 共同学習に関する情報、プログラム内容に関する事務的な情報

令和2年度から令和3年度のプログラムは、新型コロナウイルス拡大の影響のため、オンラインで実施することに決定された。オンラインで実施したため、令和2年度と令和3年度に関しては緊急連絡網の作成をおこなわなかった。

2 実施状況

令和元年度派遣プログラムへの学生の参加状況、費用補助状況の概要について述べる。費用の面から、短期派遣の京都大学学生の修学を支援する体制には、以下の三種類がある。

- ① 機能強化経費「世界最高峰の現代アジア・日本研究の教育研究拠点形成－京都大学アジア研究クラスターと国際連携大学院プログラム－」による基幹経費（京都大学）
- ② 京都大学重点アクションプラン（京都大学）

以下の表 3 では、基本情報（実施期間・応募・参加学生数）、費目別の費用補助該当者数（学費・渡航費・宿泊費）、奨学金受給者数（JASSO 奨学金）、各項目の合計人数を、上記①～②による費用負担の該当是非と合わせて示す。

プログラムを対面あるいはオンラインで実施するかの判断は、現地の状況と大学の活動制限レベルを参考にしながらおこなう必要がある。令和 2 年度から令和 3 年度は、実質的に短期の渡航が不可能だったため、オンラインで実施することに決定した。オンラインで開催するにあたって、実施体制が安定していたタイ・チュラーロンコーン大学とインドネシア大学で試験的にオンラインプログラムを実施した。令和 3 年度のインドネシア大学スプリングスクールに関しては、期間を短縮して実施することにし、後期集中科目としては不開講とした。令和 2 年度のタイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクールとインドネシア大学、本プログラムをオンラインで実施するのは初の試みであったものの、タイ・チュラーロンコーン大学とインドネシア大学の協力により大過なく実施することが出来た。

3.1 2020 年度派遣プログラムの実施状況概要

	タイ・チュラーロンコーン 大学スプリングスクール	ベトナム国家大学 ハノイ校サマースクール	インドネシア大学 スプリングスクール	計
実施期間	令和 3 年 3 月 11 日～3 月 24 日		令和 3 年 3 月 1 日～3 月 12 日	
応募学生数	5 名		3 名	8 名
参加学生数	5 名		3 名	8 名
学費補助	①5 名		①3 名	8 名
渡航費補助				
宿泊費補助				
チューター費	②5 名		②3 名	8 名
業務委託	なし		なし	0 名
JASSO 奨学金	なし		なし	0 名

表 3.2 2021 年度派遣プログラムの実施状況概要

	タイ・チューラーロンコーン 大学サマースクール	ベトナム国家大学 ハノイ校 外国語大学学生交流会	インドネシア大学 スプリングスクール	計
実施期間	令和 4 年 2 月 14 日～2 月 25 日		令和 4 年 2 月 21 日～3 月 4 日	
応募学生数	1 名		3 名	4 名
参加学生数	1 名		3 名	4 名
学費補助	①②1 名		①②3 名	4 名
渡航費補助				4 名
宿泊費補助				0 名
チューター費	②1 名		②3 名	4 名
業務委託	なし		なし	0 名
JASSO 奨学金	なし		なし	0 名

2020 年度

チュラーロンコーン大学との学生交流セミナー

チュラーロンコーン大学スプリングスクール

インドネシア大学スプリングスクール

京都大学多文化共学（オンライン）プログラム（2020年度）

タイ・チュラーロンコーン大学との学生交流セミナー（オンライン）のご案内
—それぞれの「今」から見たタイ・日本文化比較—

申込締切：2020年10月8日（木）正午

【日程】

2020年10月22日（木）12:00~14:30

【プログラム概要】

本セミナー（オンライン）では、タイ王国で最も古くに設立された、伝統あるチュラーロンコーン大学東洋言語学部日本語講座の学生とお互いの「今」について議論し、文化についての理解を深める機会を提供する。また、本セミナーは、国際交流の経験を積むことで異文化への興味・関心を育むだけでなく、日本の文化の理解を深め発信することの重要性を学ぶことを目的としている。

【プログラムの内容】

チュラーロンコーン大学東洋言語学部日本語講座の学生と特定のテーマについての小グループでの議論や総合討論をおこないます。テーマは、「新しい生活様式について」、「伝染病に対する現代の人々の考え方」や「ニューノーマル時代の教育」などです。

【使用言語】

日本語（一部英語）

【募集詳細】

募集人数： 12名程度
募集対象： 京都大学に在籍する正規の学生
応募条件： 異文化体験・異文化学習に意欲を持つ者

【費用詳細】

なし

【申込】

登録方法： オンライン（google form）にて参加登録（右のQRコードかURLから）

選考： 定員を超過した場合には書類による選考をおこなう。

URL: <https://forms.gle/gDrERneugqqgri347>

【本件照会先】

学際融合教育研究推進センター 西島薫 (nishijima.kaoru.5c@kyoto-u.ac.jp)



【備考】

- ・とくに学部1年生や2年生で今後、国際交流の経験を積みたい学生の参加を歓迎します。
- ・事前学習（3～4時間）への参加が必須です。日時は参加者で相談して決めます。
- ・今年度のスプリングスクールの参加を希望している学生には強く参加を推奨します。

4. チュラーロンコーン大学スプリングスクール

4.1 実施体制

チュラーロンコーン大学 (Chulalongkorn University)

実施責任者

Chomnard Setisarn

文学部東洋言語学科日本語講座・助教授

担当教職員

Panlanan Thananchai

文学部東洋言語学科日本語講座・助手

京都大学

実施責任者

落合 恵美子

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット長・教授

安里 和晃

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット・准教授

担当教職員

河合 淳子

国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター・教授

西島 薫

学際融合教育研究推進センター・特定助教

4.2 募集要項とポスター

京都大学多文化共学短期[派遣]留学プログラム

2021年タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクールのご案内

Spring Intensive Course for Thai Language and Culture

2021

申込締切：~~2021年1月15日(金)正午~~

2021年1月29日(金)正午まで延長

【日程】

2021年3月11日(木)～3月24日(水)：講義および研修(オンライン)

【プログラム概要】

本プログラムでは、タイ王国で最も古くに設立された、伝統あるチュラーロンコーン大学によるタイ語授業および文化についての講義、タイ文化体験、タイ語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論の機会をオンラインにて提供します。タイの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流が得られます。

【募集詳細】

募集人数： 10名程度

募集対象： 京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生
(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属の者を優先する)

応募条件： 異文化体験・異文化学習に意欲を持つ者

【費用詳細】

参加費用：約1～2万程度※(学費を含む)

※上記は、アジア研究教育ユニット(KUASU)補助金を差し引いた金額となります。

※為替レート、参加人数によって変動します。

※最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの)

研修費用

(上記費用に含まれないもの)

個人的な諸費用、通信費

【申込み】

申請手順：

1. プレ応募フォームに入力してください。プレ応募は、2. のオンライン申請の準備となるもので、

5分程度で完了します。

<https://forms.gle/nZsbf23NNdZZWpd6>

2. オンライン申請を行ってください。

以下の<URL>に必要事項を入力し、プログラムへの申請を行ってください。(下記 3. の書類をそろえた上で、2 の入力を開始することを勧めます。)

<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

※ログイン ID 及びログインパスワードは KULASIS に掲載(全学生向け共通掲示板→【留学情報

はこちらを Click】)

3. 以下の書類 a-dをそろえ、上記のオンライン申請ページにアップロードして下さい。

- a. 志望動機 (書式自由、所属・学年・氏名を明記のこと、A4 X1 枚程度)
- b. 誓約書 (自署つき)
- c. パスポートの顔写真ページのコピーまたは英文在学証明書
- d. 成績証明書

募集要項、誓約書は下記 URL からダウンロードしてください。

<アジア研究教育ユニット> <http://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/>

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>

全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらを Click】

【選考】 書類審査および面接によりおこなう。

【募集・選考スケジュール】

~~申込締切：2021年1月15日(金) 12:00(正午)~~

申込締切：2021年1月29日(金) 12:00(正午)

~~面接：2021年1月20日(水) 12:15-12:45(オンライン)~~

~~16:30-17:00(オンライン)~~

~~1月21日(木) 12:15-12:45(オンライン)~~

~~16:30-17:00(オンライン)~~

面接： 2021年2月3日(水) 12:10-12:45(オンライン)

16:30-17:00(オンライン)

2021年2月4日(木) 12:10-12:45(オンライン)

16:30-17:00(オンライン)

上記日程のうち1人 10分程度

オリエンテーション：2021年2月5日（金）12:10-12:50（オンライン）
（出席必須）

タイ語会話教室および発表準備演習：2021年2月8日から2月12日（参加必須）

【備考】

- ・本プログラムは以下の機関・事業により一人当たり約3万円の援助を受けて行われます。
 - （1）京都大学アジア研究教育ユニットによる支援
- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めない。
- ・国際高等教育院附属 日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」（2020年度後期：月曜2限）を受講した上での参加を推奨している。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」（アジア研究）の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた支援体制のもとでおこなわれます。

【本件照会先】 国際高等教育院

河合 淳子

学際融合教育研究推進センター

西島 薫

ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp（短期留学プログラム東アジア代表アドレス）

タイ・チュラーロンコーン大学 スプリングスクール

Spring Intensive Course for Thai Language and Culture 2021

プログラム日程：2021年3月11日（木）～ 3月24日（水）（オンライン）

【プログラム概要】

タイ王国で最も古くに設立された、伝統あるチュラーロンコーン大学によるタイ語学習および文化についての講義、タイ文化体験、タイ語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論の機会をオンラインにて提供する。タイの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流が得られる。

【詳細】

- ・募集人数：10名程度
- ・研修内容：タイ言語文化講義、学生交流、発表討論
- ・募集対象：京都大学に在籍する正規の学部生および修士課程大学院生
(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・
アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先する)
- ・費用：参加費用：約1~2万程度（学費を含む）
自己負担：食費、個人的な諸費用

【申込方法】

- ・申込み：下記HPで募集要項を確認し、オンライン申請をおこない、必要書類をそろえてオンライン上で提出してください。
<アジア研究教育ユニット> <http://www.kuasucpier.kyoto-u.ac.jp/>
<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>
全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらをClick】

【申込締切】 ~~2020年1月15日（金）12時00分（正午）~~
2021年1月29日（金）12時00分（正午）

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子
学際融合教育研究推進センター 西島 薫
ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.j（「*」を@に変更）

【備考】

- ・本プログラムは以下の機関・事業により一人当たり約3万円の援助を受けて行われます。
(1) 京都大学アジア研究教育ユニットによる支援
- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めない。
- ・国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」（2020年度後期：月曜2限）を受講した上での参加を推奨している。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」（アジア研究）の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた支援体制のもとでおこなわれます。

4.3 研修日程

チュラーロンコーン大学サマースクール โครงการอบรมหลักสูตร Chulalongkorn Univ. Summer School 2019			
月日 (曜)	時間	プログラム概要 (場所/教室)	担当者
วันที่ เดือน (วัน)	เวลา	กำหนดการ (สถานที่ ห้องเรียน)	ผู้รับผิดชอบ
3月11日 (木)	9:00-12:00	チュラーロンコーン大学キャンパス案内	チョムナード先生
	13:00-16:00	タイ国紹介・タイ文化紹介	
3月12日 (金)	9:00-12:00	タイ語講座 1	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化①「タイの祭り」	
3月13日 (土)	09:00-12:00	タイ語講座 2	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ語講座 3	
3月15日 (月)	09:00-12:00	タイ語講座 4	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化②「タイの歴史」	
3月16日 (火)	09:00-12:00	タイ語講座 5	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食 รับประทานอาหารกลางวัน	
	13:00-16:00	タイ文化③「タイの伝統工芸 1」	
3月17日 (水)	09:30-12:30	Japanese Culture (授業参加)	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	Japanese for Communication (授業参加)	
3月18日 (木)	09:00-12:00	タイ語講座 6	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化④「タイの信仰」	
3月19日 (金)	09:00-12:00	タイ語講座 7	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化⑤「タイの食文化」	
3月22日 (月)	09:00-12:00	タイ語文化⑥「タイ文学とタイ文化」	
	12:00-13:00	昼食 รับประทานอาหารกลางวัน	
	13:00-16:00	タイ文化⑦「タイの伝統工芸 2」	
3月23日 (火)	09:00-12:00	タイ語講座 8	クワンチャノック先生
	12:30-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化⑧「タイ語とタイ文学にみられるタイ文化・思想」	
3月24日 (水)	10:00-12:00	修了式	

4.4 参加学生一覧

班 長	氏 名	NAME	所 属	学 年
	上河 力	UEKAWA CHIKARA	経営管理大学院	M2
	杉野 好美	SUGINO YOSHIMI	アジア・アフリカ地域研究研究科	D3
	松尾 絢海	MATSUO AYAMI	農学部	B2
	松村 寛子	MATSUMURA HIROKO	農学研究科	M1
	間宮 春希	MAMIYA HARUKI	文学部	B2

4.5 発表とディスカッション

オンラインプログラムによるカリキュラム変更により従来の合同発表とは形式を変更し日本の紹介とディスカッションの時間を設けた。タイ・チュラーロンコーン大学のプログラムでは、京都大学生とチュラーロンコーン大学学生による個人発表をおこなった。3月17日 Japanese Culture (授業参加) では、京大生とチュラーロンコーン大学の学生が、それぞれの伝統行事の発表をおこなった。京大生は日本の伝統行事(お正月 [松尾]、節分 [杉野]、桃の節句 [松村]、お盆 [上河 (松村代読)]、月見 [間宮]) について紹介をおこなった。17日の Japanese for Communication の授業では、京都大学生による発表後、チュラーロンコーン大学の学生とのディスカッションをおこなった。簡単な発表をおこなった後、ディスカッションをおこなった。ディスカッションのテーマは、外国の人にぜひ紹介したい場所・活動(杉野担当)、コロナ時代の便利なアプリ(買い物やゲームなどのアプリ)(間宮担当)、コロナ時代の趣味、アクティビティ(松尾担当)、コロナ禍でよく売れたもの、ヒット商品(松村担当)、日本ではやっているタイのもの(上河担当) だった。

4.6 参加学生報告

「2021 チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経営管理教育学部・M2年 上河 力

チュラーロンコーン大学のスプリング派遣プログラムは言語や文化を学んだり、現地の学生と交流したりと、学問に特化した内容ではなく、大学間のコミュニケーションを重視した年次プログラムでした。過去には京都大学の学生がバンコクのチュラーロンコーン大学キャンパスを訪れて開催されていましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響による入国規制の為に渡航ができず、zoomアプリを利用したオンラインでのプログラム開催でした。

参加者は全員がタイ語の初心者だったので、派遣参加前には京都大学が提供した語学入門クラスに全員で参加したり、図書館でタイの歴史や経済データを調べました。タイに関しては観光国の印象が強かったのですが、そのことが経済データからも読み取れました。タイ観光・スポーツ省の発表によると、新型コロナウイルス前の2019年にタイを訪れたインバウンド観光客数は3,980万人と日本を上回っています。訪タイ観光客から得る観光収益を見ると、タイは日本のUSD 411.15億の1.5倍以上となるUSD 630.42億で、アジア圏のトップであり、世界的に見ても、米国、スペイン、フランスに次いで4位に位置しています。国家経済社会開発庁の発表ではGDP全体の20%近くが観光関連の事業から成り立っており、政府は2030年までに30%まで引き上げることを計画しています。2週間に渡ってチュラーロンコーン大学の先生や学生と日々接していると、どうしてタイがアジアをリードする観光立国なのかが見えてきました。温暖な気候と食文化だけでなく、タイ人の「マイペンライ」な気質、過去に一度もコロニアル化されることなく築き上げられた独自の風習や伝統工芸、自分と異なる人を排除するのではなく受け入れるダイバーシティな社会など、旅行者を魅力するヒトと文化的要素が豊富です。

また今回の派遣プログラムは社会問題を他人事と思わず、自分で何ができるかを考える貴重な機会でした。昨年の夏季からバンコクでは反体制デモが続いています。現軍事政権の非民主的な政策に不満を持ち、王室財産の見直しや王室崇拝教育の廃止を求める社会運動がチュラーロンコーン大学やタマサート大学の学生をリードに広がっています。王室批判をタブーと考える親世代とは意見が一致しないこともあるようです。京都大学での派遣参加前のミーティングでは、政治的な発言や王室に関する会話は避けたほうが良いとのアドバイスを伺っていましたが、タイの先生方や学生はデモ活動に関して自らが解説され、我々にも意見を求められました。空気を読み、協調性を重んじる日本人らしい風儀からきているのでしょうか、日本に暮らしていると皇室や政治のことを公の場で発言する機会がありません。そのため意見交換の時間では上手く発言できませんでした。自分と違う意見を支持する人たちと言い争いたくない、そこから関係を壊したくないという思いと同時に、環境や社会の課題を

可視化し改善していくには、我々各々が当事者意識、ステークホルダーとしての課題認識を持つことが求められます。今回の派遣参加を通じて、社会の課題に対して問題意識を持つことの価値、どうして（why）と問い、何をすべきか（what）を考えるうえでの対話による意見交換の意義を改めて認識できました。

「2021年タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール オンライン留学報告書」

京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科
博士5年一貫過程3年
杉野 好美

① 学習成果

今回の留学の目的は、将来、タイの薬草調査を行うため、最初の入り口として、言語や文化を理解し、知識と経験を身につけることであった。参加する前は、タイに1度旅行で訪れたことがあったが、タイ語を全く話すことができなかった。また、主な観光地に行ったため、タイの人々と交流する機会もあまりなかった。タイに関する知識は、私がアジア・アフリカ地域研究研究科に在学しているため、授業で少し学び、タイの研究者の発表を聞く機会があったが、これまでは受け身の姿勢でタイについて聞いていた。

タイのオンライン留学を考え始めてからは、私の本来の研究国であるインドネシア以外に、タイにも関心を持ち始め、3月はみっちりタイについて見聞きする時間となった。このプログラムが事前学習を含めて、タイ語の授業が半分以上あったことから、短期間ではあったものの、あいさつや日常生活に必要な単語を習得することができた。また、タイの文化については、概要・政治・祭り・宗教・食べ物・伝統工芸・歴史等、様々な角度からその分野の専門の先生の授業を受けることができ、基本的な知識を得ることができた。今後は、研究科にタイ人の留学生やタイを研究している先生・学生がいるため、引き続き彼らから話を聞き、可能であれば、来年度のタイ語の授業を受講し、学びを継続したいと考えている。

タイで過ごすことはできませんでしたが、タイ人の先生や学生とのオンラインの交流で、タイ人は優しくて明るい人柄であるという印象を持ち、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきたら、実際にタイに行きたいと考えている。

② 海外での経験

今回、実際にタイに行って経験を積むことができなかったが、限られた状況の中で、オンラインという方法で交流ができ、今後、タイに行きたい気持ちが強くなったことはよかったと思う。また、日本にいるタイ人との交流や、タイに関する文献を読み、京都のタイ料理屋に行くなど現在できる範囲で、国際交流、海外への関心を持ち学び続けたいと考える。

③ プログラムの内容

オンライン留学という新しい試みの中、日本の生活を送りながら、2時間の時差に対応した授業ということで、昼食の30分休憩をお願いし、それに応じてもらえたのはよかった。時間割について、午前が言語、午後が文化という組み合わせはよかったと思う。なぜなら、言語は、毎回1人ずつ発言する機会が多く、脳をしっかり使うため、朝の脳がまだ疲れていない時間帯に学ぶほうが効果的であった。私の個人的な意見になるが、オンラインの場合は、文化の授業は2時間の授業で集中しておこなったほうが、集中維持や効果的な学習ができたのではないかと考える。3時間の授業で、先生によって授業の内容が膨大で、休み時間が短いこともあり、途中で、疲労を感じた。

④ 進路への影響

将来的に、タイと本来の調査対象であるインドネシアの薬草の比較などを行っていきたいと考える。地域研究を行う上で、現地語や、その国の背景を知ることは必要不可欠である。今回の留学を最初のスタートとし、今後も、タイでの調査を踏まえて、言語やタイに関する文化などを学んでいきたいと考える。

「2021年チューラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 松尾絢海

自分自身の世界を、この大学生活で大きく広げたい。そして、海外で学ぶことを「特別なもの」ではなく「自分自身の何か目的のための手段」として捉えてみたい。そんな折、ちょうど興味を持っていた国・タイの大学によるスプリングスクールがあることを知り、私はこのプログラムに参加した。今回のこのチューラーロンコーン大学が提供するスプリングスクールでは、タイ語の学習、タイの仏教や伝統行事など文化についての勉強、チューラーロンコーン大学の学生との交流等を通じて、タイについてだけでなく、自分自身の考え方や、将来について見直すことができたように思う。以下、その詳細について書いていきたい。

まず、今回のプログラムはオンラインであったため、事前学習も含め主にzoomを使って行われたが、タイの先生方による各講義、また学生との交流において、オンラインであってもそのやり取りの相互性は失われず、むしろ時間を超過して話したくなるほどにディスカッションを交わすことの楽しさを見出すことができた。またその中で、タイの在り方自体が現在過渡期にあり、そのことについての考え方が若者とその上の世代でギャップがある、という話が印象に残った。今回授業を受けることのできたどの先生方も、タイの政治などについて自分なりの考えをしっかりと持っており、そのことについて意見を交わすことができたのが興味深かった。普段生活している中で、私たちは自分たちの暮らす環境、例えば政治について、ディスカッションすることが少ないが、身の回りの状況をもっと主体的に、ときに疑いながら、その在り方を真摯に考える時間を持つことの大切さを思い知らされた。そし

てその考えを持つということこそが、私たちを決定するアイデンティティとなりうるのではないかと思う。

そして、このプログラムを通して、自分の将来に新たな選択肢・視点を見出すことができた。私はこのスプリングスクールで、今まで消極的になっていた将来を違う視点で捉え直すことができたと共に、異なるバックグラウンドを持つ国内外の学生や先生と交流したことで、知らない世界に“飛び込む力”を得たように思う。

今回、COVID-19 による渡航規制などにより、残念ながらオンラインでの開催であったが、とても有意義な時間を過ごすことができたと思う。現地に直接行き、授業で習ったことをすぐに自分自身の目で確かめることは叶わなかったが、今回の学びを熟成させ、より発展させて、いつの日かタイに行けることを楽しみにしたい。そして、このタイの留学に留まらず、次の世界を広げるために、どんどん新しいことに挑戦していきたいと思う。

「チュラーロンコーン大学スプリング派遣参加報告書」

京都大学 農学研究科

修士1年 松村寛子

私は学部1年生のときにタイを訪れ、タイ北部の農業見学やタイの大学生との交流を通じて東南アジアに興味を持つようになった。当時の記憶を顧みると、タイの気候は年間を通して温暖であり、広大な山地で粗放的に農作物を栽培していたように思われる。未整備な農地では機械化が困難であり、カボチャやイモなど重量のある野菜の収穫も人力に頼る部分が多いという印象を受けた。一方で、環境に優しい農業の取り組みも始まっており、例えばエビの養殖では、養殖池に蓄積する化学物質や排泄物などを除去することで、持続的に養殖池を使用していた。今回のオンライン留学では農業の授業はなかったが、チュラーロンコーン大学の先生方から、タイの農業の分岐点ともなり得る話を聞いた。タイ北部では5年ほど前から、焼き畑から生じる微粒子による大気汚染が深刻化しているが、タイ政府はミャンマー由来の微粒子であると説明しているという。責任を他国に転嫁することは望ましくない。焼き畑は計画的に行えば環境への負荷を小さく抑えることができるため、政府あるいは県からの適切な指導によって営農形態を変えることは可能であり、将来的にはタイ政府が自国の農業を強化し、環境保全型へ転換することが予想される。私は日本の農業に関する仕事に携わりたいと考えており、将来日本の農業とタイの農業の協同事業が起こることがあれば、あるいは事業を起こすことができれば、積極的に参画したい。

今回の短期留学はオンラインでの参加だったが、タイの文化や歴史などについて深く学ぶことができた。勉強する以前は仏教を中心とした国というイメージだったが、実は元来タイに存在した精霊信仰に仏教やヒンドゥー教などの宗教が融合して現在の宗教観が生まれたということを知り、日本の神仏習合との類似点に気づくことができた。加えて、タイでは仏教

が生活に根差していることも学び、寺院参拝や朝の托鉢の準備を頻繁に行うほか、公務員や一部の企業では出家休暇を設けるなど、日常生活で仏教との関わりが薄い私にとってたくさんの驚きがあった。また、近隣諸国間の活発な人の移動によってミャンマーや中国、マレー系などの影響を受けた言葉や伝統工芸品、料理などの紹介があり、タイの地域ごとの特徴を比較したことはとても興味深かった。タイの政治についても少し触れたが、自国の政治に関心を持ち、自身の意見を持ったうえで議論をするタイの学生の姿勢はすばらしいと感じた。日本では政治に関して自身の意見を表明することは少なく、特に若者は政治に無関心であることが多いと言われる。私自身もこれまで政治や政策について深く考えていなかったのに、政治について語れる環境に身をおくこと、そして自身の考えを言語化することを意識づけていきたいと感じた。

最後にタイ語の勉強について述べたい。タイ語は京都大学とチュラーロンコーン大学で2度学習した。京都大学では留学直前の一週間前に、タイ人の大学院生から自己紹介や簡単な会話、数字などをオンラインで教わった。発音や作文練習など、アクティブな授業形態でタイ語に少しずつ慣れることができ、知っている単語が増える喜びを感じることができた。自身の研究活動でお忙しい中、タイ語を教えて頂いた大学院生に感謝申し上げたい。チュラーロンコーン大学では授業の半分がタイ語の勉強であり、タイ語の先生からは言葉だけでなく、その背景にある意味についても丁寧に教わった。ほぼ毎日、3時間タイ語を楽しく学ぶ中で、タイ語で話せる内容や聞き取れる語彙が増え、二週間だけの留学だったがタイ語をぐっと身近に感じる事ができた。日本人の拙い発音だったが親切に聞き取ってくださり、最後まで楽しい授業を提供してくださった先生に感謝申し上げたい。今後もタイ語の勉強を続け、タイに訪れる機会ができた時には、タイ語で現地の方々と交流できるようにしたい。

末筆だが、海外への渡航が自由にできない状況の中、オンライン留学を開催して下さった両大学の関係者の皆様に心から御礼申し上げるとともに、タイの留学と一緒に参加した学生との出会いに心から感謝申し上げます。

「チュラーロンコーン大学派遣参加報告書」

京都大学文学部・研究科2年

間宮春希

① 学習成果

プログラムに参加して、大学での学習と国際理解の意欲に関する2つの変化が起きた。

まず、交流を通じた広い視点を持ち、大学で学習したいと感じた。プログラムには、学年や学部が異なる様々な生徒が参加した。プログラムを通して、同じテーマの発表でもバックグラウンドが異なると発表内容が異なると感じた。例えば、経済を学ぶ方は、価値創出や地域振興という視点で伝統工芸の発表を行った。私は古くから続く文化の歴史に注目して発表

をしたので、工芸の振興と継承という視点に驚いた。発表や交流の場が新たな視点の発見につながるので、受動的な講義だけでなく意見交流の場がある学習を行いたいと感じた。

次に、他国や世界の現状を学びたいと感じるようになった。プログラムを通して他国の理解と日本との比較は、日本の理解につながると感じた。例えば、政治の情報収集のためタイではクラブハウスを利用すると聞き、日本とタイにおける、政治に対する意識の差を感じた。タイ以外の国と比較した日本の姿を知り、改善すべき日本の課題や優れた点を見つけ、日本に住むとはどういうことか見つめなおしたいと感じた。

② プログラム内容と経験

事前学習、タイ語の学習、文化交流の3つのプログラムがオンラインで行われた。

事前学習では京都大学に留学中の生徒に、英語でタイ語を学んだ。発音して交流できるようになったものの文字を読むことができず、タイ語を学ぶ難しさを痛感した。そして、失敗してもマイペンライ(大丈夫)の精神で支えてくれる先生の姿勢に、穏やかで優しいタイの国民性を感じた。

タイ語の学習では、家族の紹介や地図の教え方といった実践的な内容を中心に学んだ。事前学習を活かした交流の中でも不明点が生まれたが、マイペンライと明るく支えられ伝えようとする態度が大切と気づいた。

文化交流では各先生の講義と、タイの学生との交流会を行った。祭り、信仰、伝統工芸、歴史といった各先生の講義では、日本との比較や意見交流が活発に行われた。タイの学生との交流会では、日本の年中行事である月見と日本で流行のアプリを私は紹介した。しっかり伝わるように、英語と日本語とローマ字読みを交えたスライドで紹介した。伝わっているか不安だったが、発表後に拍手や質問をする生徒がおり、言語の壁を超えて伝えられる喜びを感じた。また、Tik Tok やマッチングアプリが流行っている点に日本との類似性を感じる一方で、授業で Google スライドを利用すると聞き授業形態の差を感じた。

③ 進路への影響について

プログラムを経て、国際的な交流を受け入れ働きたいと感じた。交流会では日本語を学ぶ大学の人が zoom の画面いっぱいに表示され驚いた。そして、国際的な交流はオンラインの普及に伴い今後ますます増えるだろうと感じた。国際的な交流には言語の壁があり難しいが、相手や自分もつ、伝えたいという気持ちを大切に働きたいと感じた。なぜなら、私がタイ語の学習で苦戦していた時に、タイの方はマイペンライと明るく声をかけ支えてくれたからだ。コミュニケーションの根底にある伝えたいという気持ちを大切に、グローバル化する社会で働きたいと私は感じた。

5 インドネシア大学スプリングスクール

5.1 実施体制

インドネシア大学 (University of Indonesia)

実施責任者

Sri Handayani Yasa

Indonesian Language Program (BIPA) Manager,
LBI, Faculty of Humanities

Tantriana Widyaningsih Elfrida

Marketing Manager, LBI, Faculty of Humanities

担当教員

Fachril Subhandian

Lecturer, Faculty of Humanities

京都大学

実施責任者

落合 恵美子

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット長・教授

安里 和晃

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット・准教授

担当教職員

河合 淳子

国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター・教授

西島 薫

学際融合教育研究推進センター・特定助教

5.2 募集要項とポスター

多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム
2021年インドネシア大学スプリングスクールのご案内
Spring Intensive Course for Indonesian Language and Culture 2021

申込締切:2021年1月29日(金)正午

【日程】

・2021年3月1日(月)～3月12日(金) 講義及び研修(オンライン)

【プログラム概要】

本プログラムでは、インドネシアで最も古くに設立された伝統ある高等教育機関のインドネシア大学によるインドネシア語学および文化についての講義、インドネシア文化体験、インドネシア語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論、バーチャル実地研修等の機会をオンラインにて提供します。インドネシアの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流の場が得られます。

【募集詳細】

・募集人数: 10名程度

・募集対象: 京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生

(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・

アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先します)

・応募条件: 異文化体験・異文化学習について高い意識を持つ者、

【費用詳細】

・参加費用: 1万～2万円程度

※上記は、アジア研究教育ユニット(KUASU)補助金を差し引いた金額となります。

※為替レート、参加人数によって変動します。

※最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの)

研修費用

(上記費用に含まれないもの)

個人的な諸費用、通信費

【申込み】

申請手順:

1. プレ応募フォームに入力してください。プレ応募は、2. のオンライン申請の準備となるもので、5分程度で完了します。

<https://forms.gle/XzsUfEJZWH9cyENT8>

2. オンライン申請を行ってください。

以下の<URL>に必要事項を入力し、プログラムへの申請を行ってください。(下記 3. の書類をそろえた上で、2 の入力を開始することを勧めます。)

<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

※ログイン ID 及びログインパスワードは KULASIS に掲載(全学生向け共通掲示板→【留学情報

はこちらを Click】)

3. 以下の書類 a-dをそろえ、上記のオンライン申請ページにアップロードして下さい。

- a. 志望動機 (書式自由、所属・学年・氏名を明記のこと、A4 X1 枚程度)
- b. 誓約書 (自署つき)
- c. パスポートの顔写真ページのコピーまたは英文在学証明書
- d. 成績証明書

募集要項、誓約書は下記 URL からダウンロードしてください。

<アジア研究教育ユニット> <http://www.kuasu.cpi.kyoto-u.ac.jp/>

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>

全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらを Click】

【選考】 書類審査および面接によりおこなう。

【募集・選考スケジュール】

申込締め切り: 2021 年 1 月 29 日(金)正午

面接: 2021 年 2 月 3 日 (水) 12:10-12:45 オンライン

16:30-17:00 オンライン

2021 年 2 月 4 日 (木) 12:10-12:50 オンライン

16:30-17:00 オンライン

※上記日程のうち、一人 10~15 分程度。

最終結果通知: 2021 年 2 月 8 日(月)

オリエンテーション: 2021 年 2 月 10 日(水) 12:10~12:50

於 オンライン(出席必須)

インドネシア語会話教室: 2021 年 2 月 25 日、26 日(出席必須)

【備考】

- ・本プログラムは以下の機関・事業により一人当たり約 3 万円の援助を受けて行われます。
 - (1) 京都大学アジア研究教育ユニットによる支援
 - ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めない。
 - ・国際高等教育院附属 日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」(2020 年度後期: 月曜 2 限)を受講した上での参加を推奨している。
 - ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
 - ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」(アジア研究)の単位に充当される場合があります。
 - ・本プログラムは「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた 支援体制のもとでおこなわれます。
- ・2021 年 2 月に本学国際高等教育院／アジア研究教育ユニットが主催する「京都スプリング

プ

プログラム 2021」への参加を推奨する(受講申請締切 2021 年 1 月 8 日)。

(参照 URL: <https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/information/show/3556>)

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子

学際融合教育研究推進センター 西島 薫

ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp (短期留学プログラム東アジア代表アドレス)

多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム(2020年度)

2021年インドネシア大学スプリングスクール Spring Intensive Course for Indonesian Language and Culture 2021

【日程】 (オンライン)

開始日：2021年3月1日(月)

終了日：2021年3月12日(金) (2週間)



【プログラム概要】

インドネシアで最も古くに設立された伝統あるインドネシア大学によるインドネシア語学および文化についての講義、インドネシア文化体験、インドネシア語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論、実地研修等の機会をオンラインにて提供します。インドネシアの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流の場が得られます。

【詳細】

- ・ 募集人数：10名程度
- ・ 研修内容：インドネシア言語文化講義、学生交流、バーチャル実地研修、発表討論
- ・ 募集対象：京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生
(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先します。)

・ 費用：10,000~20,000円程度

※上記は、アジア研究教育ユニット (KUASU) 補助金を差し引いた金額となります。

※ 最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの)

研修費用、宿泊費用

(上記費用に含まれないもの)

個人的な雑費用、通信費

【申込方法】

- ・ 申込み：下記HPで募集要項を確認し、オンライン申請をおこない、必要書類をそろえてオンライン上で提出してください。
<アジア研究教育ユニット> <http://www.kuasuu.cipier.kyoto-u.ac.jp/>
<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>
全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらをClick】

【締切日】 **2021年1月29日(金) 12時00分(正午)**

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子 ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
学際融合教育研究推進センター 西島 薫 (短期留学プログラム東アジア代表アドレス)

【備考】

- ・ 本プログラムは以下の機関・事業により一人当たり約3万円の援助を受けて行われます。
(1) 京都大学アジア研究教育ユニットによる支援
- ・ 同時期に実施される他プログラムとの併願を認めない。
- ・ 国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」(2020年度後期：月曜2限)を受講した上での参加を推奨している。
- ・ 自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・ 本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」(アジア研究)の単位に充当される場合があります。
- ・ 本プログラムは「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた支援体制のもとでおこなわれます。
- ・ 2021年2月に本学国際高等教育院/アジア研究教育ユニットが主催する「京都スプリングプログラム2021」への参加を推奨する(受講申請締切2021年1月8日)。

5.3 研修日程

Universitas Indonesia Spring School 2020

1MAR-12MAR

Date	Time	Activity	Lecturer/Staff	Place
Mon, 1 MAR	9:00-10:30	BAHASA INDONESIA	BIPA	Online
	11:00-12:30	BAHASA INDONESIA	BIPA	Online
	14:00-16:30	Persiapan Presentasi		Online
Tue, 2 MAR	9:00-10:40	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:40	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	13:00-14:30	Kelas Kebudayaan Tarian Indonesia	BIPA	Online
Wed 3 MAR	—	—	—	—
Thu., 4 MAR	9:00-10:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	13:00-14:30	Kunjungan Virtual ke Yogyakarta	BIPA	Online
Fri. 5 Mar	9:00-10:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
Mon, 8 Mar	9:00-10:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	15:00-16:30	Drama Jepang	Universitas Indonesia	Online
Thu, 9 Mar	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kelas Kebudayaan Kuliner Indonesia	BIPA (Ibu Ninin, Bapak Andi, SPW)	Online
Wed, 10 Mar	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Persiapan Presentasi		Online
Thu, 11 Mar	—	—	—	—
Fri, 12 Mar	9:00-10:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	15:00-16:30	Joint Presentation / Closing Ceremony	BIPA / Fachril Andi	Online

5.4 参加学生一覧

班 長	氏 名	NAME	所 属	学年
	坂口綺那	SAKAGUCHI AYANA	文学部	B3
	岡澤 節	OKAZAWA SETSU	法学部	B2
	岩岡侑汰	IWAOKA YUTA	文学部	B1

5.5 共同発表

日時： 2021年3月12日（金）15:00-16:30
場所： オンライン
担当教員： Fachril Subhandian（インドネシア大学人文科学部・講師）
西島薫（京都大学学際融合教育研究推進センター・特定助教）
司会進行： Fachril Subhandian

1. 「日本とインドネシアの似ている料理」

発表者：坂口綺奈	京都大学文学部3年
アイシャ ムルヤサフィトリ	インドネシア大学人文科学部
ムハマッド ラフリ	インドネシア大学人文科学部

「日本ーインドネシア間文化交流の土壌」

発表者：岩岡侑汰	京都大学文学部1年
ランディ リズキ ラマダン	インドネシア大学人文科学部
ジアムル レイマン	インドネシア大学人文科学部

3. 「食べ物からみる日本とインドネシア」

発表者：発表者：岡澤節	京都大学法学部2年生
スワスティカ ティオサラ パダム	インドネシア大学人文科学部
タウフィック ヒダヤトゥラ	インドネシア大学人文科学部

5.6 参加学生報告

「インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部 岩岡侑汰

1. 学習成果

私はインドネシア語学習の一環としてプログラムに参加したが、結果的に最も大きかった成果は主体的・能動的な学習および交流ができたことであると感じる。プログラム内ではインドネシア大学の学生と共に受講するクラスが幾つかあり、また最後には共同でのプレゼンテーションがあったが、その他にも学生が主体となって文化交流の機会をつくることに成功した。インドネシアの地を踏むことができなかつたことは唯一残念であったが、しかしその中で最大の成果を出せるよう精一杯の取り組みができたことは満足であった。来年度以降、現地に赴ける状況が整った時には自分で計画を立て留学を行いたい。

2. 海外での経験

プログラムの中で先生方・同級生と交流するにあたり、初めのうちは細かな言動一つ一つにすら違和感を覚え、そういった点で異文化間の障壁を感じていた。例えば「はい」「いいえ」といったごく単純な相槌ですらその文化・言語に特有のリズムやニュアンスがあると感じており、それを自然に分かるようになるには努力が必要だったはずである。しかし最後には多少のジョークを含めインドネシア大学の学生たちと打ち解けて会話ができたので、これは成長した経験であると感じる。

3. プログラム内容

プログラムは語学が主であったが、インドネシア大学の先生方にインドネシア語を教えてもらうのはこの上なく貴重な機会であった。私はプログラム以前に多少インドネシア語を学んでいたが、先生方には非常に実際的なインドネシア語を教えて頂き、理解が深まったと実感した。インドネシア大学の学生とディスカッションを行う場面では先生方に教えて頂いた知識を活かそうと努力した他、日本語・英語・インドネシア語を交えて会話をするという稀有な経験を味わった。

4. 進路への影響について

私はプログラムの志望動機書に「将来の研究に役立てたい」と書いたが、プログラムを通して多くのヒントを得られたのではないかと感じる。例えばインドネシアの移動手段について、Ojek や Gojek といった交通機関は日本にないユニークなものであり、地理にまつわる一つの課題として調べるに値するのではないかと考える。就職等に関しても、ある程度インドネシア語を習得するまでの目安が付けられそうだと感じ、進路選択のための視野を広げるための一助としたい。

「2021 インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部2年 岡澤 節

①学習成果

このプログラムに参加する前の私は「国際交流」というものを難しく考え過ぎてしていました。しかし実際に2週間、インドネシアの学生と様々な会話をして感じたのは、人と人が仲良くなるのにそこまで難しいことを考える必要はないということです。もちろん文化や生活習慣が違う以上、悪気なく相手を不快にさせることのないよう、普段以上に気をつけなければなりません、しかし、考え方の違いを尊重し相手を傷つけないよう気を配るといのは、日本人同士で話すときにも大切なことなのではないでしょうか。国や文化が違うということは、お互いを理解し合う上で決して乗り越えられない障壁ではないということを感じてきたように思います。

また、今回のプログラムでお話をしたのはインドネシア大学の日本語学科の方々でしたが、皆さんとても自然に日本語を話されており、日本の文化についても豊富な知識をお持ちだということに驚きました。私も自身の専門科目について、より真剣に取り組みたいと改めて感じるきっかけとなりました。

今回のプログラムは最初から最後までオンラインで行われたのですが、そんな中でも大変充実した時間となりました。プログラムを設計・運営してくださった先生方には本当に感謝の気持ちしかありません。ただ、やはりインドネシアの先生や学生たちと会話する中で「いつか直接会いたい」という気持ちも強くなっていきました。状況が落ち着くまではオンラインでの国際交流や自身の専攻の学習に精を出しつつ、学生のうちに直接海外の方と交流する機会を模索していきたいと思います。

②プログラム内容と経験

午前中はインドネシア語の日常会話、午後はインドネシアの伝統的なダンスや料理などを学びました。インドネシア語に触れるのは今回が初めてでしたが、アルファベットの読み方などの初歩から丁寧に教えて頂き、楽しく学ぶことができました。少人数のクラスだったこともあり、実践的な会話演習を重ねることができとても勉強になりました。また、インドネシア語は呼びかけ方ひとつにも相手との関係性、特に目上の方に対する礼儀を大切にすることが学びました。

午後の授業で学んだインドネシアの文化の中で特に印象に残っているのは、ジョグジャカルタ州の料理 SONGGO BUWONO です。この料理は、ジャワの伝統的な料理とオランダなどからもたらされた洋食文化とのカルチュレーション（文化変容）の結果生まれたものだと思います。この料理を通じて、様々な文化が重なり合いながら大切にされているインドネシアの雰囲気を感じることができたのではないかと思います。帰省後実家の家族にも振る舞ったところ、皆非常に喜んでくれました。月並みな表現ではありますが、音楽などだけでなく「美味しい」という気持ちも国境を越えるのだと改めて気づくことができました。

③進路への影響について

進路については現時点で明確に決めている訳ではないのですが、このプログラムを通じて新たな知識を学ぶことの楽しさを再確認できたため、もう少し勉強をしたいという気持ちが強まっています。また、日常生活の中にもそれぞれの国の文化や考え方が反映されていることを感じたので、自分の研究を行う際にも「各国の文化との関わり、影響」という視座を忘れずに持っていきたいと考えています。

「2021年インドネシア大学派遣参加報告書」

京都大学文学部3年 坂口綺那

このプログラムに参加して一番印象に残っているのは、インドネシア大学の学生たちの日本に関する知識の豊富さと学ぶ意欲である。インドネシア大学で日本語を学んでいる学生とは、主に共同プレゼンテーションを通して交流した。彼らは日本の食べ物や地名、サブカルチャーをよく知っていた。日本人である私も知らなかったアニメ、現在日本で放映されているドラマやそこに出ている俳優も知っていることには驚いた。まるで日本人と会話していると感じられるほど、彼らは前提知識として日本のことをよく知っていた。さらにネットを通して今の日本の情報も常に吸収しているのだと感じられた。

また、彼らの語学力の高さにも舌を巻く思いだった。主に日本語で行われた彼らとの会話で、特に不自由に感じることはなかった。私たち日本人はプログラムの午前中にインドネシア語授業を受講したが、そこで私は新しい言語を学ぶ難しさを痛感していた。自分自身新しい言語を学ぶことで、母国語以外で会話ができる彼らの能力の高さを再認識させられたのだった。私はプレゼンで同じグループの学生にプログラムに参加した理由を尋ねたのだが、「日本語を話す練習をしたかったから」という答えが返ってきた。このように意欲的に学ぶ彼らの姿勢は私にとってよい刺激になったと思う。

さらにプログラムの午後にはインドネシアの文化体験があった。オンライン開催でも楽しめるようなアクティビティを用意していただいた。その中でもインドネシアの伝統料理を作る授業が楽しかった。この授業では、ジャワの伝統料理「SONGGO BUWONO」を作った。料理名はジャワ語で「空/世界を支える」という意味だそうだ。西洋の食文化の影響を受けたこの料理の見た目は、香辛料を多用するインドネシア料理の私のイメージとは異なっていた。シュー皮、ラギー、ソース、付け合わせからなり、各パーツにもそれぞれ「地球」「国民」「空」「木」といった意味合いがあるらしい。実際に現地で食べられなかったのは残念ではあるが、現地派遣ならば作ることもなかったであろうインドネシア料理を作ることができたのはよかった。リモートではあったものの、「作る」行為を通してインドネシアの文化を体感するとともに参加者との共時性を感じることができた。

そもそも私はインドネシアの文化について漠然と知りたいという思いから、このプログラムに参加させて頂いた。私は共同プレゼンテーションで食文化をテーマにしたこともあり、食べ物の面からインドネシア文化を学ぶことが多かった。多くの島々からなるインドネシアでは、日本に比べ食文化も地方の独自性が高い。また知識としては知っていたが、ムスリム

である彼らの口から「豚肉はあまり食べない」ということを聞いて、いかにイスラーム教が彼らの生活に根付いているのかが感じられた。漠然としたインドネシアのイメージが、インドネシアの学生と交流することで少し具体的になった瞬間である。

私のようにインドネシアや他の国についてまずは知りたい、という学生にとってはこのプログラムはとても有益だと思う。私自身プログラムを終えて、インドネシアに行ってみたくという気持ちが強くなったとともに、よりこの国について知りたいという探求心も生まれた。少しでも興味があれば、まずは参加してみることを勧めたい。

最後に、このプログラムを企画・運営してくださった先生、関係者の方々、一緒に参加した日本人学生、そして協力してくれたインドネシア大学の学生に感謝を述べたい。家にいながら充実した 10 日間を過ごせたのは彼らのおかげである。本当にありがとうございました。そしてこの貴重な体験を今後の生活、学業に活かしていきたいと思う。

2021 年度

ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー
チュラーロンコーン大学スプリングスクール
インドネシア大学スプリングスクール

6. ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー

多文化共学学生交流セミナー（2021年度）

ベトナム国家大学外国語大学との学生交流セミナー（オンライン）のご案内
—ベトナムと日本の「今」と「これから」—

申込 締 切： 2021年12月20日（月）正午

【日程】

2022年1月6日（木）15:00~18:00

【プログラム概要】

本セミナー（オンライン）では、ベトナム国家大学日本語文化学部の学生とお互いの「今」と「これから」について議論し、それぞれの文化についての理解を深める機会を提供する。また、本セミナーは、国際交流の経験を積むことで異文化への興味・関心を育むだけではなく、日本の文化の理解を深め発信することの重要性を学ぶことを目的としている。

【プログラムの内容】

ベトナム国家大学外国語大学日本語学部の学生と特定のテーマについての小グループでの議論や総合討論をおこないます。テーマは、「これからの学生生活」、「今後の働き方」や「これからの観光と移動の課題」などです。

【使用言語】

日本語（一部英語）

【募集詳細】

募集人数： 10名程度

募集対象： 京都大学に在籍する正規の学生

応募条件： 異文化体験・異文化学習に意欲を持つ者

【費用詳細】

なし

【申込】

登録方法：オンライン（google form）にて参加登録（右のQRコードかURLから）

選考：定員を超過した場合には書類による選考をおこなう。

URL: <https://forms.gle/EEUZnkY1kS7DKTme6>

【本件照会先】

学際融合教育研究推進センター 西島薫/ 国際高等教育院 河合 淳子
教育推進・学生支援部 国際教育交流課 海外留学掛
ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

【備考】

- ・とくに学部1年生や2年生で今後、国際交流の経験を積みたい学生の参加を歓迎します。
- ・事前学習（3時間程度）への参加が必須です。日時は参加者で相談して決めます。
- ・今年度のスプリングスクールの参加を希望している学生には強く参加を推奨します。

7. チュラーロンコーン大学スプリングスクール

7.1 実施体制

チュラーロンコーン大学 (Chulalongkorn University)

実施責任者

Chomnard Setisarn 文学部東洋言語学科日本語講座・助教授

担当教職員

Panlanan Thananchai 文学部東洋言語学科日本語講座・助手

京都大学

実施責任者

落合 恵美子 大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット長・教授

安里 和晃 大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット・准教授

担当教職員

河合 淳子 国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター・教授

西島 薫 学際融合教育研究推進センター・特定助教

7.2 募集要項とポスター

京都大学多文化共学短期[派遣]留学プログラム

2022年タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール(オンライン)のご案内

Spring Intensive Course for Thai Language and Culture 2022

申込締切: 2022年 1月 11日(火) 12:00 正午

【研修日程】

2021年2月14日(月)~2月25日(金): 講義および研修(オンライン)

【プログラム概要】

本プログラムでは、タイ王国で最も古くに設立された、伝統あるチュラーロンコーン大学によるタイ語授業および文化についての講義、タイ文化体験、タイ語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論の機会をオンラインにて提供します。タイの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流が得られます。

【募集詳細】

募集人数: 8名程度

募集対象: 京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生
(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属の者を優先する)

応募条件: 異文化体験・異文化学習に意欲を持つ者

【費用詳細】

参加費用: 5,000円~1万円程度

※上記は、大学補助(50,000円)、アジア研究教育ユニット(KUASU)補助金(5,000円程度)

を差し引いた金額となります。すなわち 60,000~65,000円程度かかるプログラムです。

※大学補助はプログラム終了後に参加者へ振り込まれます。

※プログラムを修了できない場合、大学補助は支払われません。

※最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの)研修費用、(含まれないもの)個人的な諸費用、通信費

【申込み】

申請手順:

1. プレ応募フォームに入力してください。5分程度で完了します。

<https://forms.gle/uGJftqSYjHFfZ4YbA>

2. オンライン申請を行ってください。

以下の<URL>に必要事項を入力し、プログラムへの申請を行ってください。(下記 3. の書類をそろえた上で、2 の入力を開始することを勧めます。)

<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

※ログイン ID 及びログインパスワードは KULASIS に掲載(全学生向け共通掲示板
→【留
学情報はこちらを Click】)

3. 以下の書類 a-dをそろえ、上記のオンライン申請ページにアップロードして下さい。

- a. 志望動機(書式自由、所属・学年・氏名を明記のこと、A4X1 枚程度)
- b. 誓約書(自署つき)
- c. パスポートの顔写真ページのコピーまたは英文在学証明書
- d. 成績証明書

誓約書は下記 URL からダウンロードしてください。

<アジア研究教育ユニット> <https://www.kuas.cpi.kyoto-u.ac.jp/>

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>

全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらを Click】

【選考】 書類審査およびグループ面接により行います。

【スケジュール】

申込締切: 2022 年 1 月 11 日(火) 12:00(正午)

面接: 2022 年 1 月 13 日(木) 12:10-12:30 /12:40-13:00
18:30-18:50 /19:00-19:20

予備日: 2022 年 1 月 14 日(金) 12:10-12:30 /12:40-13:00
18:30-18:50 /19:00-19:20

※面接はオンライン実施。

最終結果通知: 2022 年 1 月 18 日(火)

オリエンテーション:2022 年 1 月 20 日(木)12:10-12:50

※合格者オリエンテーションは対面で行います。出席必須。

タイ語会話教室及び発表準備演習:2022 年 2 月 1 日~10 日の間(10 時間・参加必須)

【備考】

- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めません。
- ・国際高等教育院附属 日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」(2021 年度後期:火曜 2 限)を受講した上での参加を推奨しています。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。

- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」(アジア研究)の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた 支援体制のもとでおこなわれます。

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子
学際融合教育研究推進センター 西島 薫
ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp (短期留学プログラム東アジア代表アドレス)



京都大学多文化共学短期派遣留学プログラム(2021年度)

タイ・チュラーロンコーン大学 スプリングスクール

Spring Intensive Course for Thai Language and Culture 2022

募集説明会 2021年11月24日(水)、26日(金)12:10-12:50

Zoomにて(内容は両日同一です)

説明会共通URL <https://onl.tw/iLftzmr>

プログラム日程：2022年2月14日(月)～2月25日(金) (オンライン)

【プログラム概要】

タイ王国で最も古くに設立された、伝統あるチュラーロンコーン大学によるタイ語学習および文化についての講義、タイ文化体験、タイ語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論の機会をオンラインにて提供します。タイの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流の機会を得ることができます。

【詳細】

- ・募集人数： 8名程度
- ・研修内容： タイ言語文化講義、学生交流、発表討論
- ・募集対象： 京都大学に在籍する正規の学部生および修士課程大学院生（大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先）
- ・費用： 参加費用：**5,000～10,000円程度**（学費を含む）

※上記は、大学補助(5,000円)、アジア研究教育ユニット(KUASU)補助金(5,000円程度)を差し引いた金額となります。すなわち0,000～65,000円程度かかるプログラムです。

※大学補助はプログラム終了後に参加者へ振り込まれます。

※プログラムを修了できない場合、大学補助は支払われません。

※最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの) 研修費用、(含まれないもの) 個人的な諸費用、通信費

【申込方法】

- ・申込み：下記HPで募集要項を確認し、オンライン申請を行ってください。

<アジア研究教育ユニット> <https://www.kuasucp.kyoto-u.ac.jp/>

【新着情報】にて

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>

全学生向け共通掲示板 → 【留学情報はこちらをClick】



【申込締切】 **2022年1月7日(金)1月18日(火)12時00分(正午)**

【備考】

- ・2月上旬に事前会話教室を予定しています。
- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めません。
- ・国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習2021年度後期：火曜限」を受講した上での参加を推奨しています。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「タイ研修」(アジア研究)の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「「開かれたASEAN+6」による日本再発見-SENDを核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都府重点戦略アクションプランによって引き継がれ支援体制のもとでおこなわれます。

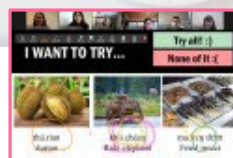
【本件照会先】

国際高等教育院 河合 淳子

学際融合

教育研究推進センター 西島 薫

nishijima.kaoru.5c@kyotou.ac.jp



2020年度プログラム(オンライン)の様子

7.3 研修日程

チュラーロンコーン大学サマースクール โครงการอบรมหลักสูตร Chulalongkorn Univ. Summer School 2019			
月日 (曜)	時間	プログラム概要 (場所/教室)	担当者
วันที่ เดือน (วัน)	เวลา	กำหนดการ (สถานที่ ห้องเรียน)	ผู้รับผิดชอบ
3月11日 (木)	9:00-12:00	チュラーロンコーン大学キャンパス案内	チョムナード先生
	13:00-16:00	タイ国紹介・タイ文化紹介	
3月12日 (金)	9:00-12:00	タイ語講座 1	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化①「タイの祭り」	
3月13日 (土)	09:00-12:00	タイ語講座 2	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ語講座 3	
3月15日 (月)	09:00-12:00	タイ語講座 4	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化②「タイの歴史」	
3月16日 (火)	09:00-12:00	タイ語講座 5	クワンチャノック先生
	12:00-13:00	昼食 รับประทานอาหารกลางวัน	
	13:00-16:00	タイ文化③「タイの伝統工芸 1」	
3月17日 (水)	09:30-12:30	Japanese Culture (授業参加)	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	Japanese for Communication (授業参加)	
3月18日 (木)	09:00-12:00	タイ語講座 6	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化④「タイの信仰」	
3月19日 (金)	09:00-12:00	タイ語講座 7	
	12:00-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化⑤「タイの食文化」	
3月22日 (月)	09:00-12:00	タイ語文化⑥「タイ文学とタイ文化」	
	12:00-13:00	昼食 รับประทานอาหารกลางวัน	
	13:00-16:00	タイ文化⑦「タイの伝統工芸 2」	
3月23日 (火)	09:00-12:00	タイ語講座 8	クワンチャノック先生
	12:30-13:00	昼食	
	13:00-16:00	タイ文化⑧「タイ語とタイ文学にみられるタイ文化・思想」	
3月24日 (水)	10:00-12:00	修了式	

7.4 参加学生一覧

班長	氏名	NAME	所属	学年
	小仲 美齡	KONAKA MIREI	文学部	B1

7.5 事前語学学習レポート

Teaching report: Preliminary Thai-language course 2022

Pakwan PINITKITJAWAT

Graduate student,

Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University

The course aims to introduce Thai culture and language to the Japanese student who joins the exchange program with Chulalongkorn University. The student is at the intermediate level with the capacity to read and write in Thai alphabets. Thus, this year we offer a four-day course with a focus on improving speaking and listening skills for daily conversations. The class is conducted mainly in the Thai language. Kindly refer to the brief class contents as below:

Day 1: Self-introduction with related vocabulary. The class also includes cultural notes on Thai nicknames, Thai greeting gestures, and formal and informal pronouns and ending words.

Day 2: Vocabulary and phrases used in hospitals. The class reads a short Thai news article and learns new words. After that, we do the hospital simulation to practice the lesson and discuss the health-care cultures in Japan and Thailand, such as operating hours, insurance claims, and self-service kiosks.

Day 3: Vocabulary and phrases for public transportation. We have a listening exercise on safe buses in Thailand. The class provides a cultural lesson on Thai temples, including what to do and don't, religious activities, and how to pay respect to Buddhist monks and statues.

Day 4: Vocabulary and phrases for shopping. We learn about Thai coins and counterfeits, as well as numbering in the Thai language. Also, the lesson covers the date and time in formal and informal languages. For cultural lessons, we talk about how to order food at a local made-to-order restaurant.

The class finishes by wrapping up the lessons in the course.

Note: Teaching materials can be shared upon request.

7.6 共同発表

2021 年度プログラムでは、参加者は「日本の労働」と梶井基次郎の『檸檬』の作品の舞台となった京都に関する発表を実施した。

7.7 担当教員所感

スペイン風邪以来100年ぶりといわれる新型コロナウイルス感染症の大流行で、社会のすべての活動に大きな変革の波が押し寄せ、教育もその例外ではありませんでした。本学の「サマースクール」も2年連続でオンラインによるプログラムとなりました。いずれも実施期間は例年と同じ



く2週間でしたが、モニター越しの交流ではやはり取り組みに工夫が要され、ある意味で挑戦的なプログラムとなりました。例えば、WEB 会議を実現させるアプリケーションが教室にとって代わったり、グループ活動が「ブレイクアウトルーム」で行われたり、実地研修がビデオによる紹介やデモンストレーションになったりしました。五官を通じて異文化を体験することに勝るものはありませんが、オンラインは独特の「近さ」があり、たとえ目と耳のみに頼る授業でも十分参加者のみなさんに響くものがあったと思われます。

「コロナ禍」という困難にもかかわらずこのプログラムが継続されたことは喜ばしいことです。願わくは来年度こそタイで京都大学のみなさんが迎えられますよう祈っています。

チューラーロンコーン大学文学部東洋言語学科・学科長

チョムナード・シティサン准教授

7.8 参加学生報告

「タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学文学部・研究科1年 小仲美齡

学習成果

参加する前、私がこのプログラムに期待していたことはタイ語運用能力の向上と同時代にタイで生きる人たちの感情、考え方に触れることでした。小学3年から5年生の夏までタイの現地校に通っていたため、当時からタイがどのように変貌を遂げたのかにも興味がありました。

結果から述べると、期待した以上の成果を得ることができました。私以外に日本側の参加者がいなかったため、教授と一対一で学びました。タイ語学習については、経緯や使用場面によって 4 段階あるタイ語の表現を学び、それぞれに対応する文章を読みました。(王室の広報、外務省の告知、スポーツ新聞、気象予報、スラング、ジョークなど) チュラーロンコン大学の教授がピックアップした資料は非常に適切で、読めばタイの気候風土、農産業、地理、タイ社会の構造や精神性が自然に立ち上がってくるようなものでした。例えばプラユット首相の国会答弁を読んだのですが、その中で彼は自身を有名な文学ラーマーヤナの英雄ラーマ王子にたとえ、一方対する新しい未来党の党首を物語中で倒される鬼になぞらえて暗に威圧していました。先生によればラーマーヤナはタイの政治、文化、歴史、芸術何を考える上でも押さえるべきだそうです。私は古典文学が現代にも強く影響を及ぼしていることを強く感じました。

今デモで問題となっている王制について、年配の教授にお話を伺う機会にも恵まれました。彼女は、若い人たちの主張が生きて伸びて行くのかもしれない、と認めつつも、王制を肯定し、王を守護する軍事政権を評価していました。私がタイ語を教わったもう少し若い教授は、評価を下すことはなかったのですが、一步引いてフラットな立場にいるようでした。十分な数のタイ人と話したわけではないのですが、ここからでも年代ごとに政治への態度に差があることが窺えました。

このことと、先程の文学が今でも政治の引き合いに当たり前のように出てくるのが印象に残りました。タイでは昔から続く伝統や文化が重視される一方、そこから抜け出そうとする動きもあるようだと感じました。

若者文化を知る機会もありました。若い人たちの間では、BL (ボーイズラブ) や k-pop、ソーシャルゲーム「原神」が人気があるようです。特に中国の BL にはまる人が多いと聞きました。流行の最先端に行くコンテンツとしての日本のプレゼンスは弱くはないにせよ支配的ではないようでした。彼らがそれらのコンテンツにどこを介してアクセスしているのか興味を持ちました。

一方私がタイにいたころと比べて日本の存在が強くなっていると感じたものもありました。和食です。当時は生魚や生卵は敬遠され、したがって寿司やすき焼きは好まれなかったのですが、今や大人気だと教えられ驚きました。やはり世界遺産に登録された影響が見られるようです。

以上がインプットで、次にアウトプットとして、話す、書く練習もしました。

授業は基本的にすべてタイ語で進行し、分からない単語の説明を英語で受けるというものでした。時々教授が私の意見を聞いてくださる場面があり、双方向的な授業でした。例えば私の希望で村上春樹の「海辺のカフカ」をタイ語で読んだのですが、この箇所は日本語ではどう書かれているのか、ムラカミの特徴は何だと思えるか、などについて意見を求められました。

書くことについては、短い作文やタイ語で詩を作るアクティビティがありました。韻の踏み方、有名な古詩の鑑賞などができ、とても有意義でした。

今後この経験をどう生かしていくかについてですが、私は二回生からは地理学を学ぶつもりです。そこでタイに焦点を当てて、マクロには近隣諸国との関係、ミクロにはバンコクの都市設計について研究したいと思いました。バンコクは洪水や渋滞に絶えず悩まされる都市だと告げられたので、どうすればよいのか考えてみたいと思ったためです。本プログラムで見聞きしたことが、今後研究するうえで形を変え必ず役立つと信じています。

8. インドネシア大学スプリングスクール

8.1 実施体制

インドネシア大学 (University of Indonesia)

実施責任者

Sri Handayani Yasa

Indonesian Language Program (BIPA) Manager,
LBI, Faculty of Humanities

Tantriana Widyaningsih Elfrida

Marketing Manager, LBI, Faculty of Humanities

担当教員

Ariestyani Wahyu Perwitasari

Lecturer, Faculty of Humanities

京都大学

実施責任者

落合 恵美子

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット長・教授

安里 和晃

大学院文学研究科／アジア研究教育ユニット・准教授

担当教職員

河合 淳子

国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター・教授

西島 薫

学際融合教育研究推進センター・特定助教

8.2 募集要項とポスター

多文化共学短期[派遣]留学プログラム

2022 年インドネシア大学スプリングスクール(オンライン)のご案内

Spring Intensive Course for Indonesian Language and Culture 2022

申込締切:2022 年 1 月 11 日(火)12:00(正午)

【日程】

2022 年 2 月 21 日(月)～3 月 4 日(金) 講義及び研修(オンライン)

【プログラム概要】

本プログラムでは、インドネシアで最も古くに設立された伝統ある高等教育機関のインドネシア大学によるインドネシア語学および文化についての講義、インドネシア文化体験、インドネシア語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論、バーチャル実地研修等の機会をオンラインにて提供します。インドネシアの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流の場が得られます。

【募集詳細】

・募集人数: 8 名程度

・募集対象: 京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生

(大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・

アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先します)

・応募条件: 異文化体験・異文化学習について高い意識を持つ者

【費用詳細】

・参加費用: 5,000 円～1 万円程度

※ 上記は、大学補助(50,000 円)、アジア研究教育ユニット(KUASU)補助金(10,000 円程度)を差し引いた金額となります。

すなわち 65,000～70,000 円程度かかるプログラムです。

※ 大学補助はプログラム終了後に参加者へ振り込まれます。

※ プログラムを修了できない場合、大学補助は支払われません。

※ 最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

(上記費用に含まれるもの)研修費用、(含まれないもの)個人的な諸費用、通信費

【申込み】

申請手順:

1. プレ応募フォームに入力してください。5分程度で完了します。

<https://forms.gle/uGJftqSYjHFfZ4YbA>

2. オンライン申請を行ってください。

以下の<URL>に必要事項を入力し、プログラムへの申請を行ってください。(下記 3. の書類をそろえた上で、2 の入力を開始することを勧めます。)

<https://area34.smp.ne.jp/area/p/nita0mjmel1pepbt9/hbbQ7J/login.html>

※ログイン ID 及びログインパスワードは KULASIS に掲載(全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらを Click】)

3. 以下の書類 a-d をそろえ、上記のオンライン申請ページにアップロードして下さい。

a. 志望動機(書式自由、所属・学年・氏名を明記のこと、A4×1 枚程度)

b. 誓約書(自署つき)

c. パスポートの顔写真ページのコピーまたは英文在学証明書

d. 成績証明書

募集要項、誓約書は下記 URL からダウンロードしてください。

<アジア研究教育ユニット> <https://www.kuas.cu.kyoto-u.ac.jp/>

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>

全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらを Click】

【選考】 書類審査およびグループ面接により行います。

【スケジュール】

申込締め切り: 2022 年 1 月 11 日(火)12:00(正午)

面接: 2022 年 1 月 14 日 (金) 12:10-12:30 /12:40-13:00

18:30-18:50 /19:00-19:20

予備日: 2022 年 1 月 17 日 (月) 12:10-12:30 /12:40-13:00

18:30-18:50 / 19:00-19:20

※面接はオンライン実施。

最終結果通知 : 2022 年 1 月 18 日(火)

合格者オリエンテーション : 2022 年 1 月 24 日(月) 12:10~12:50

※合格者オリエンテーションは対面で行います。出席必須。

インドネシア語会話教室 : 2022 年 2 月 1 日~10 日の間(10 時間・参加必須)

【備考】

- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めません。
- ・国際高等教育院附属 日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」(2021 年度後期: 火曜 2 限)を受講した上での参加を推奨しています。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「インドネシア研修」(アジア研究)の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「開かれた ASEAN+6」による日本再発見—SEND を核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた 支援体制のもとでおこなわれます。

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子

学際融合教育研究推進センター 西島 薫

ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp(短期留学プログラム東アジア代表アドレス)

多文化共学短期〔派遣〕留学プログラム(2021年度)

2022年インドネシア大学スプリングスクール



Spring Intensive Course for Indonesian Language and Culture 2022

募集説明会：2021年11月24日（水）、26日（金）12：10-12：50

Zoomにて（内容は両日同じです）

【研修期間】（オンライン）

説明会共通URL <https://onl.tw/iLftzmr>

開始日：2022年2月21日（月）

終了日：2022年3月4日（金）（2週間）



【プログラム概要】

インドネシアで最も古くに設立された伝統あるインドネシア大学によるインドネシア語学および文化についての講義、インドネシア文化体験、インドネシア語母語話者との日本語も交えた交流と発表討論、実地研修等の機会をオンラインにて提供します。インドネシアの言語、文化、社会、歴史等について知識を深めるとともに、高度な異文化理解・交流の場が得られます。

【詳細】

- ・募集人数：8名程度
- ・研修内容：インドネシア言語文化講義、学生交流、バーチャル実地研修、発表討論
- ・募集対象：京都大学に在籍する正規の学部生および正規の大学院生
（大学院生は、文学研究科・教育学研究科・経済学研究科・農学研究科・アジア・アフリカ地域研究研究科・経営管理大学院に所属する者を優先します。）

・参加費：**5,000～10,000円**程度

※上記は、大学補助（50,000円）、アジア研究教育ユニット（KUASU）補助金（10,000円程度）を差し引いた金額となります。すなわち65,000～70,000円程度かかるプログラムです。

※大学補助はプログラム終了後に参加者へ振り込まれます。

※プログラムを修了できない場合、大学補助は支払われません。

※最終決定通知後に参加を取りやめる場合、キャンセル料が発生します。

（上記費用に含まれるもの）研修費用、（含まれないもの）個人的な雑費用、通信費

【申込方法】

- ・申込み：下記HPで募集要項を確認した上でオンライン申請を行い、必要書類を揃えてオンライン上で提出してください。

<アジア研究教育ユニット> <https://www.kuasucp.kyoto-u.ac.jp/>
【新着情報】にて

<KULASIS> <https://www.k.kyoto-u.ac.jp/student/>
全学生向け共通掲示板→【留学情報はこちらをClick】



【締切日】 **2022年1月7日（金）12時00分（正午）**

【本件照会先】 国際高等教育院 河合 淳子 ryuga-east.asia@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
学際融合教育研究推進センター 西島 薫 （短期留学プログラム東アジア代表アドレス）

【備考】

- ・2月上旬に事前会話教室を予定しています。
- ・同時期に実施される他プログラムとの併願を認めません。
- ・国際高等教育院附属日本語・日本文化教育センター提供の全学共通科目「日本語・日本文化演習」（2021年度後期：火曜2限）を受講した上での参加を推奨しています。
- ・自然災害等その他事由により、プログラムが中止になることがあります。
- ・本プログラムの受講は、文学研究科・文学部提供の多言語多文化科目「インドネシア研究」（アジア研究）の単位に充当される場合があります。
- ・本プログラムは「「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成」から京都大学アジア研究教育ユニット、京都大学重点戦略アクションプランによって引き継がれた支援体制のもとでおこなわれます。



8.3 研修日程

Universitas Indonesia Spring School 2022

21FEB - 4 MAR 2022

Date	Time	Activity	Lecturer/Staff	Place
Mon., 21 FEB	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kelas Drama Indonesia		Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi		Online
Tue., 22 FEB.	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kelas Kebudayaan Tarian Indonesia		Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi		Online
Wed., 23 FEB.	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kelas Kebudayaan Kuliner Indonesia		Online
	17:00-18:30	Bahasa Indonesia		Online
Thu., 24 FEB.	9:00-10:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	11:00-12:30	Basic Indonesian Language Class	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kunjungan Virtual ke Yogyakarta	BIPA	Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi		Online
Fri., 25 FEB	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	15:00-16:30	Kelas Drama Indonesia	BIPA	Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi	BIPA	Online
Tue, 1 MAR	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia		Online
	15:00-16:30	Sit in di Program Studi Jepang	—	Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi	BIPA	Online
Tue, 1 MAR	9:00-10:30	Bahasa Indonesia	BIPA	Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia		Online
	15:00-16:30	Sit in di Program Studi Jepang	—	Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi		Online
Wed., 2 MAR	9:00-10:30	Bahasa Indonesia		Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia		Online
	15:00-16:30	Sit in di Program Studi Jepang		Online
	17:00-18:30	Persiapan Presentasi		Online
Fri., 4 MAR	9:00-10:30	Bahasa Indonesia		Online
	11:00-12:30	Bahasa Indonesia		Online
	15:00-16:30	Joint Presentation		Online

8.4 参加学生一覧

班 長	氏 名	NAME	所 属	学年
	大森美紀	Omori Miki	アジア・アフリカ地域研究研究科	M2
	竹下涼	Takeshita Suzu	文学部	B2
	廣岡拓	Hirooka Taku	文学部	B1

8.5 事前語学学習レポート

インドネシア語教室レポート (2022/02/08 ~ 02/17)

Cahaya Rizka Putri
Graduate School of ASAFAS

This is the report for short term multicultural program conducted in cooperation with the University of Indonesia, namely the "The University of Indonesia Spring School Pre-Travel Class 2022" held from 8-17 February 2022. The class was held online as per the instruction from the Kyoto University. The purpose of this class is to prepare the students who will travel to Indonesia with the basic understanding of Indonesian language and help them integrate with the Indonesians using natural grammar and expressions. This class focuses on useful daily conversation in university and company setting. The specific contents is as stated below.

第一回：2月8日

1. Introduction to Indonesian letters and pronunciation
 - 1.1 How to pronounce Indonesian letters
 - 1.2 How to pronounce Indonesian syllables
 - 1.3 Pronunciation practice
2. Introduction to Indonesian language (explanation of basic grammar)
3. How to do self-introduction

第二回：2月10日

1. How to introduce other people
2. How to show and indicate things
3. How to express the number of things

第三回：2月14日

1. How to use adjective
2. How to express a wish or desire
3. How to make negative statement

第四回：2月17日

1. How to use prepositions
2. Prepositions for time and people
3. How to use verbs
4. Time marker
5. How to use the appropriate title for people

Material used in this class was mainly materials created and owned privately by the lecturer. As the students were in beginner level, they were taught basic grammar and general vocabularies used in daily life and university and office setting. During the class, the students were asked to practice their pronunciations, memorize vocabularies, and create sentences.

As the class was focusing in how to enable the students to communicate using natural expressions, the students were frequently tasked to practice conversations in pair or to read aloud a short passage that they made. The aim of this practice is to improve their pronunciation and intonation, and to exercise their grammar. The students were also given listening sessions in which the lecturer would do a short reading and later ask each of them different questions regarding the content.

The lecturer was instructed to help the student to learn basic conversing ability needed for a first-time visitor to Indonesia as they will attend a joint program with the University of Indonesia (UI). Before the class started, the lecturer discussed the requirement of students of such class with a lecturer in BIPA program from UI and later received a report that the Indonesian language proficiency of Kyoto University students received praises from the joint program's lecturer. Therefore, the lecturer believes that this program managed to fulfill its target.

8.6 共同発表

日時： 2022年3月4日（金）15:00-16:30
場所： オンライン
担当教員： Ariestyani Wahyu Perwitasari（インドネシア大学人文科学部・講師）
西島薫（京都大学学際融合教育研究推進センター・特定助教）
司会進行： Ariestyani Wahyu Perwitasari

「インドネシアと日本の観光の比較」

竹下涼	京都大学文学部
コジジャ アス サファナ（ブンガ）	インドネシア大学人文学部
ムティア マウリナ ヒダヤット	インドネシア大学人文学部

「日本&インドネシア 似た料理」

廣岡拓	京都大学文学部
ムハマッド アジズ マザヤ	インドネシア大学人文学部
アリサ サラサビア	インドネシア大学人文学部

「似ている日本料理とインドネシア料理」

大森美紀	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
カタリナ・クリシダプトリ	インドネシア大学人文学部
ファティア・オーファー	インドネシア大学人文学部

8.7 担当教員所感

2022年インドネシア大学スプリングスクール

アリエスティアニ・ワハユ・ペルウィタサリ
インドネシア大学人文科学部日本学科・講師

日本とインドネシアの友好関係の具体的な形として、両国の大学生を交流させるため、例年に続き、本年度も京都大学とインドネシア大学はインドネシア大学スプリングスクールというプログラムを2週間（2022年2月21日から3月4日まで）実施しました。

インドネシア大学人文化科学部（FIB）日本学科および外国人向けインドネシア語別科プログラム（BIPA）は、ホスト校として3人の京都大学の学生を迎えることができたことを非常に光栄に思います。プログラムは昨年度の内容に基づいて計画されました。京大生はインドネシア語を学び、インドネシアの文化と芸術を体験し、インドネシア大学の学生と共同研究を行いました。また、日本学科の学部授業にも聴講して参加しました。日本の観光や日本語の意味論についての授業だったのですが、インドネシア語で行われるため、理解するのは難しいとは思っていましたが、積極的に参加する姿勢に感心しました。今後、授業担当の講師と相談の上、授業の時、授業を取っている学生とディスカッションできる場も設けられればと思います。そして、昨年度と同様に共同学習の最終課題として、共同発表を行いました。発表準備は5回ほど行われ、例年より回数が多かったため、余裕を持って準備することが出来ました。今回の参加者は9名（京大生3名、UI生6名）で、共同発表の際、京大生1名とUI生2名という3人グループが3グループつくられました。発表のテーマは「日本とインドネシアの文化比較」とし、各グループにテーマを決めていただきました。本年度のテーマは「インドネシアと日本の観光の比較」「似ているインドネシア料理と日本料理」「日本&インドネシア：似た料理特集」というテーマでした。全体的に活発な議論や質疑応答が行われました。発表者以外に、一般の学生もプレゼンテーションに参加しました。プレゼンテーションを通じて、出席者全員が両国の文化の相違点と共通点を学ぶことができました。

短い期間にもかかわらず、両大学の学生は、日頃の勉強の成果を存分に発揮することができたでしょう。このプログラムで学んだこと、文化交流を体験し、力を合わせて何かやりとげた経験は必ず皆さんの糧になるのではないかと思います。

インドネシア大学の一員として、京都大学の皆様にも、本年度のインドネシア大学スプリングスクールを実施していただいたことに感謝を申し上げます。今後とも、両大学は互いにパートナーシップ関係を築き、協働によって交流関係を継続して参りたいと思っております。



8.8 参加学生報告

「2022 年インドネシア大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

大森美紀

本プログラムはインドネシア大学の UI 外国人向けインドネシア語プログラム BIPA[Bahasa Indonesia bagi Penutur Asing, Universitas Indonesia]が主体となってアレンジして下さった。プログラムの内容は大きく 3 つに分かれる。語学、文化体験、インドネシア大学日本語学科学生との交流である。プログラムではほとんどがインドネシア語もしくは英語で行われた。日本語学科の教員や学生が関わるプログラムの場合のみ日本語での通訳が付く形であった。

語学の授業はアルファベットの読み方から始まり、挨拶、自己紹介、他己紹介、道順の尋ね方や答え方、数字の教え方、お金の教え方など、日常生活に必要な言葉や表現を学んだ。このプログラムが始まる前にインドネシア語の学習はしていたが、文法事項のみで、会話は全くと言っていいほどにできなかった。個人的に、実際に言葉がどのように使われるのかを感覚として掴まないと語学の取得が進まないタイプのため、これまでの学習はあまり身になっていないというのが悩みだった。このプログラムを通じて、インドネシア語を母語とする人たちがどのような雰囲気ですすのか分かったので、プログラム終了後はこれまでに以上にインドネシア語の学習が進むようになった。語学の授業では、文法の説明や授業の進行はおおむねインドネシア語で実施された。しかし、文化紹介的な内容であったり、プログラムの進行において重要な内容は英語で情報共有がされたので、ほとんど誤解することなく履修することができた。

文化体験の授業は、インドネシアの舞踊を踊ったり、インドネシア料理を作るなどのアクティビティがあったのでより身近にインドネシアの様子を感じることができた。また、ジョグジャカルタのオンラインツアーや童話の紹介などでインドネシアの方々日々感じている地域の雰囲気などをオンラインながら感じることができるプログラムであった。文化体験の授業はインドネシア語だけでなく日本語学科の先生や学生による通訳が着いていたので、複雑な説明や紹介があっても安心して話を聞くことができた。

日本語学科の学生とのグループワークでは、各チームが好きな内容を選び、毎日 2 時間ほどかけて最終日のプレゼンテーションへの準備をした。グループワークはプレゼンテーションの準備よりも、インドネシア大学との交流が大変良かった。お互いの文化や言語について興味がある者同士であるため、ちょっとした言葉や、文化などを紹介しあい、互いの理解を深めることができた。グループのメンバーとは現在も SNS で連絡を取っており、インドネシア語を実践的に使用する機会が以前より確実に増加した。

以上が今回のプログラムの内容と成果である。

私はインドネシア研究をしているため、これまでもインドネシアでの臨地研究には意欲があった。しかし、本プログラムを通して、以前よりも具体的にインドネシアでの調査をイメージすることができるようになり、意欲が高まったように感じている。UI の BIPA プログラムは今回のような初歩的なものだけでなく、BIPA2 や BIPA3 といったより難易度の高いプログラムもあるそうなので、次回は現地でこのプログラムを受講し、さらにインドネシアへの理解を深めたいと思う。

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部 2 年 竹下涼

1. 学習成果

今回のスプリングスクールは、オンラインでの開催ということもあり、実際に海外に行くよりも気軽に参加できた。一度、オンライン上で海外に派遣されることで、実際に留学したいという思いが強くなるとともに、留学に対する心理的ハードルが低くなったように感じる。今回の派遣を通して、大学在学中に海外に長期滞在するという決意が固まり、また、スプリングスクール・サマースクール等の制度を使い、様々な国で海外経験を積みたいという思いが生まれた。

2. 海外での経験

今回の派遣では、現地実際に訪れるという経験はできなかったが、様々な点において、現地の空気間を感じることができた。とくに、ジョグジャカルタと中継をつなぎ、バーチャル観光を体験する授業があったが、教室内の授業ではわからない、インドネシアの街並みと

日本の街並みを比較することができ面白かった。情勢が落ち着き、行けるようになったら是非他の短期留学の制度を使って、実際に東南アジアの国々に行ってみたい。

3. プログラム内容

プログラムの中で、特に時間をかけて取り組んだのは、最終日のプレゼンテーションの準備である。インドネシア大学の学生2人と組み、インドネシアと日本の観光の比較について取り上げ、発表した。準備期間中の会話の中で、日本の観光地や観光資源について聞かれ、自分の行ったことのある都道府県が少ないことや伝統芸能について聞かれてもうまく答えられないことに気が付いた。

また、インドネシア語を日本語をほぼ使わず、インドネシア語を使って教わったということが印象的であった。2週間、集中的にインドネシア語を聞くことで、最終日には簡単な言葉であれば、何を言わんとしているのか理解できるようになった。言語の授業で新しく知らない言語を学ぶことの難しさが実感できたため、日本語を学ぶ学生の意欲の高さを感じた。プログラム全体を通して、新しく学ぶことの楽しさを再認識し、新しく知りたい分野が増えた2週間であった。

4. 進路への影響について

もともと長期留学してみたいという思いを持っていたが、今回の派遣で一つの場所で学ぶだけでは実感できないことが多くあると感じ、よりその思いは強くなった。長期留学では、英語圏での留学のみを対象として考えていたが、新しく言語を学ぶ楽しさを知り、今まで学んだことのない言語を母語とする地域に行くことも視野に入れることができるようになった。

また、卒業研究として、日本の過疎地域について取り上げることを検討していたが、自分の知っている地域が非常に限られているということを実感し、既に知っている地域で完結するのではなく、幅を広げて知っていこうと思った。

「インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部 1年 廣岡拓

1. 学習成果について

インドネシア大学のスプリングスクールに参加する前から私は海外に対する関心があり、高等学校までの課程で学んだことや本やインターネットを用いて知ったこと、海外経験の豊富な友達や先輩から聞いたことなどが多くあったことから、私の海外に関する知識は他の人よりも多く、深いと自負していた。しかし、今回のインドネシア大学スプリングスクールに参加し、インドネシア人との学生と日本語や英語のみならず新しく学んだインドネシア語という言語で交流したり、インドネシアの宗教をはじめとするものの考え方の片鱗に触れたり、インドネシア独特の食文化やダンスなどを目の当たりにしたりするなかで、いかに今までの私が物事を表面的に捉えていたか、実感の伴わない単なる知識を持っているだけなのに深く理解していたつもりになっていたかを痛感した、また、今までは当たり前のものでその存在や在り方を疑うことすらなかった数々の我が国独自の言語や文化がいかに特有のものであり、異なる文化的背景を持った人に的確にその特徴を伝えるためにいかに普段から日本独自の文化に対する見識を深めておかなければならないかを身に染みて感じた。これからの大学での学習では、様々な知識を身につけ、様々な事物に対して思索を深めることを意識して行うことで、新たな考え方を理解できる下地を作り、また普段当たり前だと思っている物事を多面的に理解できるようになりたい。今後も、このような海外研修の機会があれば参加し、更に見識を広げてゆきたいと考える。特に今回は残念なことに新型コロナウイルスの感染状況の関係から現地訪問は叶わなかったが、次こそは実際に海外に足を運ぶことでよりよく海外の文化や習俗に触れ、また日本文化について見つけなおすことが出来ればと思う。

2. 海外での経験

インドネシア大学スプリングスクールでは、大きくわけて3つの経験をした。一つ目は、未知の言語を学ぶという経験である。母語の日本語以外にも、中学進級時には英語を、大学に入ってから第二外国語として中国語を学び始めているのだが、日本語の中には多くの英語由来の外来語が存在するし、日本語は多くの漢字を使って書き表す言語であるため、英語や中国語は我々日本人にとってなじみが深い言語であるといえよう。しかしインドネシア語は、表記法こそ見慣れたアルファベットであるも

の、見たことのない単語が並ぶ言語である。そのため、数字や身体部位の名称と言った基礎単語であっても覚えるのに一苦労なのである。しかも授業は基本的にはインドネシア語で進んでゆくので、はじめは先生の指示すらも理解できないのである。このような経験は、中国や欧米の文化が身近な日本では、なかなか得られないだろう。二つ目の経験としては、未知の文化を学ぶということが挙げられる。今回の研修では、人生で初めて名前を聞いた料理を作り、人生で初めて聞いた曲に合わせて見たこともない踊りを踊った。謎の調味料を買いそろえてフライパンに入れるときの独特の良い香りや、独特な踊りの耳に残る柔らかい曲調は、おそらく一生忘れることがないほど新鮮で印象深いものであった。このような経験は、このプログラムをとってこそ得られた貴重なものであったに違いない。三つ目としては、新たな友達との交流が挙げられるだろう。日本という国に興味を持ち、日本文化を愛好し、日本語を非常に高度なレベルで操る学生たちとの交流は、楽しいのみならず、インドネシアの文化について教えてもらったり、日本の文化について日本人には思いつきもしないような捉え方があることを知らされたり、と非常に勉強になる興味深いものでもあった。今回の研修のおかげで一生モノの友達ができただけに感謝したい。

3. プログラム内容

2で書いたことと内容が重複するが、大きく分けてインドネシア語学習、インドネシア文化（料理、ダンス、観光地見学、インドネシア語劇）体験、インドネシア大学の学生達との交流という三本柱に分けられるだろう。それぞれのプログラムが、私にとっては本当に知見を深める良い契機となったし、これからの私の人生を豊かにするものであるに違いない。

4. 進路への影響について

今の時点では、私は漠然と大学を卒業後は就職をしようかと考えている。今回私はインドネシア大学スプリングスクールに参加することで多くの事柄を学んだが、そのなかでも特に異文化交流ならではの、相手の考え方や文化がどういうものであるかを素早く掴み、自分の考え方や文化について本質をとらえながらわかりやすく噛み砕いて説明するということが、就職してからも不可避の、私とは異なる文化的背景や意見、ものの考え方を持った人たちとの交流の際に大いに生きてくるに違いない。私の人生の中で行き詰った時、特に人間関係や交渉といったことに苦しめられた時の、一種の解決のヒントを今回のスプリングスクールは与えてくれたのかもしれない。

多文化共学短期 [派遣] 留学プログラム 2020 年度・2021 年度実施報告書実施報告書

タイ・チュラーロンコーン大学サマースクール
インドネシア大学スプリングスクール

令和 4 (2022) 年 3 月発行

編集・発行 京都大学アジア研究教育ユニット (KUASU)

京都大学国際高等教育院 (ILAS)

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 (075) 753-5678

印刷・製本 株式会社 あおぞら印刷

電話 (075) 813-3350

